



# 三愛病院／老人保健施設 あうん高知

## 三愛病院

院長挨拶	141
概要	142
部署責任者一覧	143
医師一覧	144
職員数一覧	144
年次報告	145
診療部	145
看護部	151
医療技術部門	156
事務部	164
在宅部門	169
医療安全(感染)管理部門	172

## 老人保健施設 あうん高知

概要	174
年次報告	174
入所	174
通所リハビリテーション 「デイケア・ファイト」	176

## 三愛病院／老人保健施設 あうん高知

委員会	178
院内発表会	182
診療実績・業務実績統計	183
業績一覧	191
実習・研修生	193



中村 寿宏



令和4年度も昨年度に引き続き、一般診療とCOVID-19診療を並行して行いました。昨年度のクラスターの経験も踏まえ、感染対策を一層徹底しました。夏期の第7波、冬の第8波で多くの医療・介護施設でクラスターが発生するなか、三愛病院関連施設ではクラスターの発生を免れたことは幸いでありました。

外来診療では、4月から皮膚科に安井喜美医師が、また耳鼻咽喉科に横島悦子医師が常勤医師として勤務されることになりました。従来当院皮膚科は土曜午前だけの診療でしたので、平日診療が始まり地域の方の利便性が良くなったのではないのでしょうか。また耳鼻咽喉科はCOVID-19診療にも加わり、発熱外来受診を希望される方を受け入れています。

発熱外来受診者数は多く、特に第7波、第8波の時期には、検査能力を超える受診依頼の電話があり、お断りせざるを得ない状況が連日続きました。診療できない患者さんに申し訳ないと思いますが、怒鳴られながら電話対応している職員にはつらい思いをさせることになってしまいました。こんな状況は早く終わってほしいと思います。

一方で、COVID-19のため病院全体の一般外来受診者数は減少しており、病院受診控えの状況がポストコロナとなった際にどうなっていくか、患者さんの健康状態など気になるところです。

入院診療では、8床のコロナ対応病床で、行政からの入院受け入れ依頼に対応しました。二人の内科医師が担当し診療にあたりました。当院の受け入れ患者は高齢者で介助必要度が高く、また認知症を持たれている方も含まれ、担当する看護師は、感染対策を厳格にしながらケアを頑張ってくれました。

コロナ対応病床確保のため、一般入院用病床は病床数を縮小しています。コロナ受け入れ病床が終了した場合を考え、今後、病棟運営の改編を検討していく必要があります。

COVID-19が始まり、それに対応すべく駆け足で病院運営の改編を行いました。また疾患や治療の詳細が徐々に判明するにつれて、あるいは医療政策が変更されるに応じて、常に感染対策や診療の修正を行い、この3年間は経験したことのない慌ただしさでした。さらにこれからはポストコロナに向けての改編が控えています。これが最後の山になってくれればよいと思います。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と  
デイサービスいろは

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 概要

## 1. 理念・基本方針

### 仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

### 三愛病院の基本方針

私たちは、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。  
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。  
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

### 患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

## 2. 施設とその内容

### ①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡

建物面積：1,559.73㎡

### ②施設の内容（各階の目的、機能別）

4 F 介護医療院さんあい

2・3 F 愛1・2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1

特殊疾患入院施設管理加算

うち10床地域包括ケア入院医療管理料1

うち38床重点医療機関確保病床

1 F 外来診療部門、医療技術部門、事務部門

## 3. 標榜科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科、放射線科、形成外科、皮膚科、美容皮膚科、整形外科、精神科、泌尿器科、循環器内科、訪問診療科、リハビリテーション科

## 4. 許可病床数

98床（愛1病棟・愛2病棟併せて）



三愛病院



中庭の風景

# 部署責任者一覧

令和5年3月31日現在

院長	中村 寿宏
副院長	坂本 賢司
<b>診療部</b>	
医局長／小児科長	橋 詰 稔
内科科長	中 川 治
内科科長	小野寺 真智
内科科長	品 原 正 幸
放射線科科長	岩 井 智 郎
<b>看護部</b>	
看護部長	濱 名 郁 里
愛1病棟看護師長	細 川 亜里沙
愛2病棟看護師長	中 平 好 昭
介護医療院さんあい看護師長	大 石 陵 子
外来看護師長	片 岡 典 代
<b>在宅部門</b>	
居宅介護支援事業所「一宮」主任	和 田 真 樹
グループホームいろは丸主任	野 町 喜 代
デイサービスいろは	宮 内 清
高知市布師田・一宮地域包括支援センター	小 松 めぐみ

<b>介護老人保健施設あうん高知</b>	
施設長	細 木 秀 美
副施設長	小 松 雅 理
入所介護主任	嶋 崎 由 季
通所介護主任	三 浦 恵 子
<b>医療技術部門</b>	
薬剤室室長	小 野 正 英
放射線室主任	廣 田 任 成
臨床検査室室長	栄 田 美智子
リハビリテーション課課長	門 脇 貴 代
理学療法室主任	濱 田 くるみ
作業療法室主任	竹 倉 佐和子
言語聴覚室主任	谷 口 桃 子
栄養管理室主任	石 山 由 香
地域医療連携室看護師長	戸 田 里 子
<b>事務部</b>	
事務部長	植 田 宏 平
総務課長	猪 森 清 明
医事課長	山 本 淑 恵



三愛病院 中庭の風景



老人保健施設 あうん高知



老人保健施設 あうん高知

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

## 医師一覧

令和5年3月31日現在

理事長（内科）	細木 秀美
<b>内科</b>	
内科	中村 寿宏
	坂本 賢司
	中川 治
	小野寺 真智
	品原 正幸
	森下 美智子
	岩崎 泰正（非常勤）
	上村 千鶴子（非常勤）
	小笠原 史也（非常勤）
	青山 夏希（非常勤）
	前田 理沙（非常勤）
	鈴木 太郎（非常勤）
	小林 由佳（非常勤）
<b>小児科</b>	
小児科	橋 詰 稔
	萩野 紘平（非常勤）
	高橋 一平（非常勤）

<b>耳鼻咽喉科</b>	
耳鼻咽喉科	横 畠 悦子
	葛 目 雅 弓（非常勤）
	小佐井 創（非常勤）
	宮 内 敦 史（非常勤）
<b>放射線科</b>	
放射線科	岩 井 智 郎
<b>皮膚科</b>	
皮膚科	安 井 喜 美
	池 田 光 徳（非常勤）
<b>整形外科</b>	
整形外科	森 田 穰 二（非常勤）
	泉 仁（非常勤）
	南 場 寛 文（非常勤）
<b>精神科</b>	
不眠外来	森 田 啓 史（非常勤）
<b>泌尿器科</b>	
泌尿器科	山 本 志 雄（非常勤）
<b>循環器内科</b>	
循環器内科	西 本 美 香（非常勤）
<b>訪問診療科</b>	
訪問診療科	担 当 医

## 職員数一覧

令和5年3月31日現在

医師	14	臨床検査技師	4	管理栄養士	3
看護師	85	理学療法士	13	事務員	32
准看護師	17	作業療法士	6	技能員	4
介護福祉士	67	言語聴覚士	5	理学療法助手	0
看護助手	23	ソーシャルワーカー	5	保育士	2
薬剤師	4	社会福祉主事	2	計	293
診療放射線技師	2	支援相談員	5		



中庭の風景



介護医療院さんあい

## 診療部



## 内科



院長  
中村 寿宏



副院長  
坂本 賢司



内科長  
中川 治



内科長  
品原 正幸



内科長  
小野寺 真智



内科医師  
森下 美智子

### ①活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来診療に関しては、高知大学医学部の医局からのご支援をいただいております。常勤医師とともに一般内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器・感染症内科、消化器内科の診療体制が継続できている。また細木病院のご支援により循環器外来の診療体制も継続できている。このほか肥満外来、漢方外来、内視鏡検査などを行っている。

今年度の内科系外来のべ患者数は、前年比100%の12,642人であった。通常の医療と新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療を両立して対応を行っており、有熱者外来ではのべ1,119名の受診があり、うち1,028名で新型コロナウイルス感染症検査（抗原検査 509名・核酸増幅検査 519名）を実施した。また、新型コロナワクチン接種については、令和4年度で3,736件の接種を行った。

2. 入院診療では、内科診療は6名の、新型コロナウイルス感染症診療は2名の内科医師で担当した。褥瘡治療や認知症診療などが必要な場合は、皮膚科、形成外科、もの忘れ外来などに診療を依頼した。令和3年9月からの新型コロナウイルス感染症重点医療機関への体制変更（愛1病棟 38床（障害者病床30床、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病床 8床）、愛2病棟60床（障害者病床50床、地域包括ケア病床 10床））もあり、愛1・愛2病棟での病床稼働率は55.5%（前年70.0%）、一日当たり患者数54.4（前年68.6）と減少した。新型コロナウイルス感染症患者は83名の入院（行政からの要請受け入れ 73名）であった。介護医療院さんあいでは病床稼働率は82.7%（前年88.3%）、一日当たり患者数39.7（前年42.4）であった。

3. 地域包括ケアを念頭に、一宮地域を中心に在宅（高齢者施設を含む）患者への訪問診療を行っている。訪問診療科では毎月2～4名の医師が担当し診療にあたっている。令和4年度の訪問診療延べ数は178件であった。

### ②今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から法律上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行した。発生初期と比較して重症度は低下しているが、感染力などの性質が変わるわけではなく、特に入院患者では重症化リスクが高く、引き続き院内感染防止に努めつつ、有熱者外来や新型コロナウイルス感染症患者の治療を行っていく。

2. 通常の医療についても、地域のかかりつけ病院として外来診療や訪問診療、障害者病棟・地域包括ケア病棟への入院による在宅復帰支援や長期療養、介護医療院さんあいへの入所による医療ニーズのある要介護の高齢者さまの生活に対する医療と介護両面での支援など、引き続き対応していく。

### ③常勤医師の氏名

中村 寿宏  
坂本 賢司  
中川 治  
小野寺 真智  
品原 正幸  
森下 美智子

### ④非常勤医師の氏名

#### 【内科】

細木 秀美  
上村 千鶴子  
岩崎 泰正  
小笠原 史也  
青山 夏希（～令和4年3月31日）  
前田 理沙  
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）  
鈴木 太郎  
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）  
小林 由佳  
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）  
（文責：内科長 品原 正幸）



## 循環器内科



循環器内科  
西本 美香

### ①活動内容・目標に対する達成状況

- 令和2年7月から、週1回午前中の外来診療を行っている。定期通院患者の診療をするとともに、新患においては負荷心電図、ホルター心電図、心エコー検査など実施し必要に応じて専門治療のできる病院に紹介している。
- 前年と比較して患者数は増加している。心エコー

検査を技師に依頼できるようになったことも、患者数の増加につながったと考えられる。

### ②今後の課題

- 引き続き、必要度の高い患者さんをしっかり診ることができるよう、内科の先生方と連携して診療にあたりたい。
- 新患の検査を増やしホルター心電図や心エコー件数の増加につなげる。

### ③非常勤医師の氏名

西本 美香（令和2年7月～）

（文責：非常勤医師 西本 美香）



## 小児科



医局長／小児科長  
橋詰 稔

### ①活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

令和4年度の患者数は昨年度比9%増であった。COVID-19の流行による受診控えと、全ての感染症の減少は常態化した。

一方小児発熱外来の患者数は2,898名（前年比2,407名増）、COVID-19診断959名（883名増）と著増した。COVID-19 PCR検査を868名（419名増）、抗原検

査を1,646名（1,640名増）施行した。

小児保健関連では、地域の保育園健診（一宮保育園、東山保育園、あゆみ保育園）、幼稚園健診（一宮幼稚園）、小学校健診（一宮小学校）に出向いた。病後児保育はCOVID-19の流行のため、受け入れを制限したため減少したままである。高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

### ②今後の課題

5類扱いとなったCOVID-19に対する診療体制を再構築し、収益を確保していく。合わせてCOVID-19収束後の患者確保を見据えた診療が課題である。

### ③常勤医師の氏名

橋詰 稔

#### 4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

高橋 一平

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

萩野 紘平

(令和4年10月1日～令和5年3月31日)

(文責：医局長／小児科長 橋詰 稔)



## 耳鼻咽喉科

### 1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 前任の市川利恵医師の退職に伴い令和4年4月より横畠が耳鼻咽喉科診療を担当している。市川医師の診療内容を継続し、耳鼻咽喉科一般外来とともに月2回(第1、第3木曜)の補聴器外来を行っている。また、高知市医師会の休日診療にも参加している。
2. 令和4年度の総患者数は前年度比124%、4,361人であった。4月から7月までは担当医交代および新型コロナウイルス感染症流行による受診控えなどの影響か患者数はなかなか増えなかった。そのため、9月より発熱外来の手伝いをさせていただき、9月～翌年3月の間に369件対応した。多少でも患者減を補完できたものとする。令和5年になってからは、スギ花粉症患者の増加があり令和2年度と同程度の患者数を維持できた。

### 2 今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ここ数年流行していなかった上気道感染症が小児を中心に増加している。それに伴い中耳炎・副鼻腔炎など本来の耳鼻咽喉科疾患も増加している印象であり、一般診療内容レベルの維持に努めたい。また、新

型コロナ流行中、感染リスクを考慮して控え気味であった鼻咽腔・喉頭内視鏡検査を積極的に実施していく。

2. 令和5年春のスギ花粉症患者の増加を受けて、スギ舌下免疫療法を希望される患者の増加が予想される。花粉症患者のQOLの向上につながるため、積極的に治療を行っていききたい。
3. 睡眠時無呼吸の検査機器を新しく購入していただいたので、検査数の増加、さらにはCPAP治療に結びつけていきたい。

### 3 常勤医師の氏名

横畠 悦子

### 4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

葛目 雅弓(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

藤原 拓矢(令和4年5月1日～令和4年9月3日)

小佐井 創(令和4年8月1日～令和5年3月31日)

宮内 敦史(令和4年11月19日～令和5年3月31日)

大津 信也(令和5年1月7日)

(文責：耳鼻咽喉科医師 横畠 悦子)



## 放射線科



放射線科長  
岩井 智郎

### 1 活動内容・目標に対する達成状況

当科では、従来整形外科領域や耳鼻科領域を除く単純撮影画像の読影、腹部や頸部の超音波検査、CT画像の読影、上部消化管造影検査を行っている。ウィズコロナの段階に移行し、外来や病棟からの検査依頼の件数は回復しているようである。また、健診部門からの依頼も回復しつつある。

また、昨年末に透視装置の更新が実施され、透視検

査画像を含めたフィルムレス化が実現した。画像の質の向上や被ばく軽減も期待される。

### 2 今後の課題

当科は、繁忙の程度の変化が大きく健診部門からの画像読影や健診診察業務もあるため、しばしば読影業務が停滞する。迅速な読影に努力しているが、時として時間を要することをご理解いただきたい。レポートの質の向上に引き続き努力する所存である。

電子カルテの導入に加え、透視画像のフィルムレス化も実現したことによって業務が効率化できるものと期待している。

### 3 常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：放射線科長 岩井 智郎)



## 形成外科



形成外科医師  
三好 みちよ

### ①活動内容・目標に対する達成状況

外来スタッフや他部署協力のもと、美容外来用のチラシやポスターを作成し、来院者向けに情報発信を行った。退職前の1月、2月の患者数前年比は200%を超えた。

### ②今後の課題

三愛病院を令和4年2月末で退職し、以降は細木病院美容皮膚科開設準備を行った。移設、開設の際は外来スタッフはじめ多くの部署の皆さまにご尽力いただきましたこと、文面をお借りし感謝申し上げます。

### ③非常勤医師の氏名

三好 みちよ

(文責：非常勤医師 三好 みちよ)



## 皮膚科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

令和4年4月より、月・火・水・金の午前・午後に外来診療を新しく行っている。引き続き土曜の午前には池田医師が診療を行っている。原則予約制としており、予約の方は待ち時間が少なくなっている。コロナの影響で軽い症状の方は市販薬でまず治療するなど受診控えはあると思われた。どうしても来院できない方には電話投薬も行った。

多い。もう少し認知度が上がり、外来患者数が増加することを目標としている。また小手術の件数も増やしたいと考えている。

### ③常勤医師の氏名

安井 喜美

### ④非常勤医師の氏名

池田 光徳

### ②今後の課題

平日の皮膚科診療があることがあまり知られておらず、他科受診の際に皮膚科があることに気が付く方も

(文責：皮膚科医師 安井 喜美)



## 整形外科



整形外科医師  
森田 穰二

### ①活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は、毎回午前中で月、土は高知大学医学部整形外科教室よりの派遣医師が交代で、水、金は森田穰二が担当している。地域医療に十分貢献できているが、心配な点もある。本科もコロナの影響が大きい。

### ②今後の課題

入院を要する高齢者が来院された際の対応に苦心する際は、いつも「本店」のお世話になっている。

### ③非常勤医師の氏名

森田 穰二  
高知大学医学部 派遣医師  
泉 仁  
南場 寛文

(文責：非常勤医師 森田 穰二)



## 泌尿器科



泌尿器科医師  
山本 志雄

### ①活動内容・目標に対する達成状況

細木病院グループでは細木病院で高知大学と連携し、火、木、土、の外来のうち、木曜日を担当し、三愛病院では火曜日の午後と金曜日の午前を担当しています。

専門は一般泌尿器科、腫瘍、感染、小児、結石、神経因性膀胱、過活動膀胱を含めた排尿障害です。排尿管理は薬物療法、カテーテル管理、自己導尿、排尿誘

導など患者の症状に応じて対処しています。

患者数は微減ですが、前立腺がんなど、泌尿器科がんを早期発見し、高知大学や近森病院などに紹介しています。また、細木病院でMRIが更新され、前立腺がんが生検前に診断できるようになりました。

### ②今後の課題

各主要機関と十分に連携し、各病院の特性を活用し、患者さまに適切な対応を考えて、相談していきます。

### ③非常勤医師の氏名

山本 志雄

(文責：非常勤医師 山本 志雄)



## 精神科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

高知大学精神科医局より、森田啓史が精神科外来を毎週木曜日午前に行っている。外来診療と同時に、入院患者および介護老人保健施設あうん高知入所中の精神症状を認める患者さんの診察を担当している。加えて、内科入院中に突然発症した精神症状への対応も行っている。精神症状は心理的な要因のみではなく、身体的な異常で生じることがあるため、心理検査、血液検査や頭部画像検査などを組み合わせた診察を行いながら、患者さんが地域で安心して生活できるように、ケアマネージャーや保健師、その他の医療従事者との連携を行っている。

### ②今後の課題

令和元年度までは当科の医師は2名であったが、令和2年度からは1人となっている。よって、マンパワーの不足が課題である。加えて、当院には精神科の病床がないため、入院を要する精神症状を有した患者さんが外来を受診した際の、迅速な対応も課題と考える。

### ④非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院  
精神科 病院助教 森田 啓史

(文責：非常勤医師 森田 啓史)



## 健診室

### ①活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 活動内容

##### ①健康診断

生活習慣病予防健診(協会けんぽ)、特定健康診査(特定健診)、事業主健診(企業健診)、人間ドック、大腸がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診など。

##### ②職員健診

職員の定期健康診断、新採用者・中途採用者の健診。

#### 2. 目標達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響から、令和2年

度より受診控えがあり受診者数が減少していたが、徐々に件数が増えてきている。前年比106%程度であった。

令和元年度	健診件数：1,689件
令和2年度	健診件数：1,189件
令和3年度	健診件数：1,343件
令和4年度	健診件数：1,415件

### ②今後の課題

新型コロナウイルス感染症の流行前の件数には至っていないが、徐々に受診者数が戻りつつある傾向である。令和5年5月8日新型コロナウイルス感染症の5類感染症

移行後、徐々に受診者数の増加を期待したい。待ち時間の短縮に努めるなど受診者のニーズに応え、この病院で良かったと思っていただけるように地域の病院として生活習慣病予防、疾病の早期発見に貢献に努めていきたい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：健診室 岩井 智郎)

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

## 看護部

### 1 概要

構成部署：

愛1病棟、愛2病棟、介護医療院さんあい、外来、看護部長室  
病床数：

障害者一般病床88床、地域包括  
ケア病床10床、介護医療院48床

所属長名：濱名 郁里

構成職員：看護師 1名  
事務員 4名  
(医局秘書1名・医師事務作業補助者2名)  
合計人数 5名



看護部長  
濱名 郁里



### 2 2022(令和4)年度 目的・目標

1. 患者満足度の向上、経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改革
3. 質の高い看護・介護職員の育成

### 3 目標に対する取り組み

1. 今年度も新型コロナウイルス感染症対応に追われる1年であった。発熱外来の対応や入院時のトリアージ、感染対策を徹底して行い、第7波、第8波ともにクラスターを起こすことなく、感染者数を最小に抑えることができた。長く面会制限を行っていたが、8月からはオンライン面会をスタートさせ、3月からは対面での面会を再開させることができ、患者さんやご家族の方のQOLを高めることができた。  
2年目となった地域包括ケア病床は、地域住民の緊急入院やレスパイト入院に対応し、その機能を発揮して地域医療に貢献、安定した運営ができています。

2. 看護部における働き方改革：看護部職員のワークライフバランスの取り組みを3年間継続して実施している。看護補助者を増員し、タスクシフト/シェアの実施や勤務配慮願いの院内制度化を行い、初年度と比較し「看護ケアに時間が取れる」そう思う25%→62%と大幅に改善した。このことは、患者ケアの充実や看護の質の向上につながっている。
3. 質の高い看護・介護職員の育成：今年度も外部研修が少なくなっている中で、WEB研修やeラーニングを活用し研修参加を行ってきた。院内の必須研修なども録画配信を行い、職員の研修参加率を維持できている。また、今年度は1名の看護師が特定行為研修(栄養および水分管理に係る薬剤投与関連/血糖コントロールに係る薬剤投与関連)を受講した。特定行為の実践や、看護新教育など、今後の活躍が期待される。

### 4 次年度の課題

1. 患者満足度の向上、経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改
3. 質の高い看護・介護職員の育成

(文責：看護部長 濱名 郁里)



## 愛1病棟

### 1 概要

病棟形態：

障害者施設等一般病棟(10：1入院基本料)  
コロナ病棟(急性期一般入院基本料6)

病床数：38床

所属長名：細川 亜里沙

構成職員：看護師 11名  
准看護師 2名  
合計人数 13名



営を行う

### 2 2022(令和4)年度 目的・目標

1. 自部署の役割を理解し、ニーズに合わせた病棟運

2. 働きやすい職場環境の構築
3. 人材育成

## ③目標に対する取り組み

1. コロナ受け入れ患者総数83名(院内患者含む)。多職種連携を図りながら大きなトラブルなどの発生はなく、入退院の調整を行うことができた。要請依頼の8割が寝たきりや要介護者中心の患者層であったが、感染管理を徹底しながら状況に応じた柔軟な対応を実施することで、要請に応じることができた。

特殊な環境下においても看護職として、まず自分たちに何ができるかを念頭にケアの提供方法などを常に検討し取り組むことができた。また、入院期間が短い中で迅速なアセスメント能力や対応力が求められる中、看護職としての専門性について振り返る機会となった。

2. 総勢13名の少人数制でありチームワークにおいて強化が図られるとともに、個々の役割を認識した行動につなげることができた。患者状況に合わせ業務内容をタイムリーに変更することで、業務の効率化および、残業時間の短縮につなげることができた。

WLBのアンケート調査では、看護職としてのやりがいに関する項目において90%以上のスタッフが満足しているとの回答結果が得られた。

年間有給取得率114%と目標の70%をクリアすることができた。

3. 定期的なリーダー会を通して、新たなリーダー看護師の育成をはじめとする教育活動に取り組むことができた。しかし、中堅看護師の育成ではアセスメント能力・危険予測能力の不足が浮き彫りになることがあり、今後の課題としている。看護基礎力と共に応用力を活かせるよう研修参加を積極的に行うなどの取り組みが必要である。

また、e-ラーニングの活用はできているが集合研修などの参加率は低い傾向がみられる。ハイブリッド方式を推進することで知識、技術の向上を図る。

委員会、病棟推進係の活動においては年間行動計画に基づいての実施ができていないことがあった。メンバー間の役割を明確化し、協力体制の強化に努める。

## ④次年度の課題

1. ウイズコロナに順応した病棟運営
2. 働きやすい職場環境の構築
3. 人材育成

## 2022(令和4)年度【部署名：愛1病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	感染管理(COVID-19)PPE・ゾーニング・治療薬	栗名主任・武田看護師
5月	重症度、医療・看護必要度の記録と評価	岡林看護師・西森看護師
6月	看護記録の位置づけと記載方法	諏訪主任・中城看護師
7月	褥瘡・創傷処置・MDRPUについて	岡崎准看護師・松本准看護師
8月	ブルーコール対応・ハイリスク薬・救急搬送(COVID-19)	大原看護師・西森看護師
9月	リーダー看護師・受け持ち看護師の役割(SBAR)	藤本看護師・中城看護師
10月	感染管理(インフルエンザと感染性胃腸炎)	栗名看護師・川崎看護師
11月	ACPとエンゼルケア(COVID-19の対応含む)	諏訪看護師・松本准看護師
12月	医療機器の取り扱い(携帯用心電図・アームス)	藤本看護師・岡崎准看護師
1月	大規模災害時の対応	大原看護師・川崎看護師
2月	接遇・倫理について	武田看護師・岡林看護師
3月	事故対策とヒヤリハット報告	中城看護師・西森看護師

(文責：看護師長 細川 亜里沙)



## 愛2病棟

## ①概要

病棟形態：

障害者施設等一般病棟(10対1入院基本料)・地域包括ケア病床(13対1入院基本料)

病床数：60床(地域包括ケア病床10床)

所属長名：中平 好昭

構成職員：看護師 34名

准看護師 2名

介護福祉士 6名

看護助手 5名

クラーク 2名

合計人数 49名

## ②2022(令和4)年度 目的・目標

1. 施設基準の維持と病床稼働率の安定化
2. 働きやすい職場風土の構築
3. 看護・介護の力を発揮し、サービスの質を高める

## ③目標に対する取り組み

1. 平均障害率は93.2%で90%以上をキープできた。



地域包括ケア病床は、診療報酬改定で施設基準の変更があったが、地域医療連携室や関連部署の協力を得ながら年間通して基準クリアできた。平均稼働率は81.5%と目標の90%以上を達成することができなかった。前年度に引き続き新型コロナ感染の影響が大きかった。5月に2階フロアで入院患者4名のコロナ感染者が発生、第7波中の8月には3階フロアで入院患者2名の感染者と職員が職場内および家庭内感染で12名陽性となった。また濃厚接触となり出勤できない職員も7名おり、常に欠員が発生している状況となった。第8波の際は感染対策を厳重に行い、入院患者からの発生はみられなかったが、職員が家庭内感染で10名以上が出勤できなくなった。このように新型コロナ市中感染の状況によって、入退院に影響を受けた期間があった。定期的に新型コロナ感染者の発生はみられたが、面会制限や日頃から職員が感染対策を厳重に行ったこともあり、クラスターの発生は起こらなかった。

2. 職員一人ひとりが社会人として自律し、働きやすい職場づくりに努めてきた。フロアが2階と3階に分かれているため、チーム間の情報共有や連携の取りにくさがあった。チームメンバーの再編や業務調整、委員会活動を通じて連携しやすい環境

づくりを行った。しかし、協調性やコミュニケーション力の個人差が業務連携に影響を及ぼすこともあり、リーダーシップ・メンバーシップの発揮には課題が残った。

3. 1年間を通して感染対策を優先しながらも患者のケアの質の担保や入院支援について関連部署との連携や業務改善、調整を行うことができた。チーム運用では、リーダーが中心となりケア検討会や勉強会を行いながら、患者の個別ケアの提供に取り組むことができた。接遇面では患者との関わりの中で、言葉遣いや態度など、不適切な対応が見受けられることがあった。部署会で注意するとともに個別指導も行った。これからも職員が常に倫理意識を持ち、患者の人権を尊重したケア提供が行えるような風土を目指していく。職員の研修は、ナーシングスキルライトやオンライン研修を活用し、各々が専門職として力が発揮できるように自己研鑽に努めることができた。

#### 4. 次年度の課題

1. ポストコロナに順応した病床稼働率の安定化
2. 働きやすい職場風土の構築
3. 質の高い個性のあるケア提供ができる

#### 2022(令和4)年度【部署名：愛2病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	重症度、医療・看護必要度各項目の評価ポイント	中平師長・藤本副師長
5月	医療安全、R3年度事例報告、ヒヤリハット報告書の入力方法	田井看護師・宗石看護師
6月	褥瘡対策、スキンケア予防・MDRPU予防、ポシヨニング依頼方法・書類記載方法	島倉看護師・西内准看護師
7月	ブルーコール対応、急変対応時の看護・介護の役割、救急カートとハイリスク薬	中西准看護師・濱田看護師・弘田看護師
8月	人事考課について、職能開発カード記載時のポイント、情意考課の基準	松山主任・嵐主任
9月	医療機器の取り扱い、輸液・シリンジポンプ・モニター・AED	大石看護師・竹内看護師
10月	感染対策、感染症(有症状者)への対策、PPE着脱実施	東看護師・高橋看護師
11月	接遇、院内看護部のルール、マナーの基本、医療現場での具体例	澤村クラーク・大島クラーク
12月	認知症看護、症状に合わせた関わり方	岩崎看護師
1月	災害対策(地震・火災)、アクションカードと備品について	門田看護師
2月	エンゼルケア、マニュアル周知、ACPについて	吉川看護師・白川看護師
3月	身体拘束について、適応とカンファレンスの実施方法、センサー類の種類、選定例	山本(優)介護主任・南看護師

(文責：看護師長 中平 好昭)



## 介護医療院さんあい

### 1 概要

病棟形態	I型介護医療院	
病床数	48床	
所属長名	大石 陵子	
構成職員	看護師	13名
	准看護師	3名
	介護福祉士	12名
	看護助手	2名
	介護支援専門員	1名
	クラーク	1名
	合計人数	32名



入所者の受け入れをしている。入所は他院からの受け入れが前年より多くなった。退所については、死亡退所が最も多く、ここ数年と比較しても2倍以上の数となっている。状態があまりよくない方の受け入れも多くあったことや、コロナ感染症後の老衰などの影響が大きいと考える。

### 2 2022(令和4)年度 目的・目標

- I型介護医療院施設基準の維持
- 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
- スタッフ定着のため、WLBも考えた労働環境の改善を検討していく

2. 職員間連携で、各自がアサーティブな対応と互いに価値観を認め合うことを意識している。また、多職種が連携して働きやすいようコメディカルとも話し合いを行っている。面会制限がかかっている期間が長く、外出制限もあり地域との交流も持つことができなかった。

### 3 目標に対する取り組み

- 介護医療院さんあいの令和4年の上半期平均入所者数82.3%、下半期平均83.1%。年間平均入所者数は39.71人、平均稼働率は82.75%であり、年間目標は達成できなかった。

8月の新型コロナウイルス感染症のクラスター発生や、その後の感染対策に伴い、数カ月稼働率が落ちてしまい上記の結果となったが、徐々に以前のような状態に戻ってきつつある。

感染対策については、8月のクラスター発生時に、再度陽性者対応をすることで再学習の機会にはなった。以後下半期での感染者発生時にはクラスターとなることなく経過し、職員の意識の向上と日頃の感染対策の重要性を再認識した。

新規入所者の平均介護度は、前年とほぼ同様、介護度4・5を主に受け入れしておりケア度が高い

3. 研修参加に対する意識には個人差があるものの、オンライン研修の参加は呼び掛けた。今後も必要な研修を提示して参加を促していく。また、令和5年度4月から介護ソフトを導入しLIFE加算の算定を開始するため、必要な知識や準備を行った。

### 4 次年度の課題

- I型介護医療院施設基準の維持  
介護ソフト導入し運用開始するため、操作習得や必要な加算算定の実施
- 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
- WLBも考えた労働環境の改善

### 2022(令和3)年度【部署名：介護医療院さんあい】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	1. 受け持ち記録物について 2. 高齢者虐待防止・身体拘束適正化について	1. 関ケアマネージャー 2. 浅野介護福祉士
5月	1. ブルーコール、急変時対応	1. 楠瀬准看護師、橋本准看護師
6月	1. 医療・介護事故防止、発生時の対応	1. 藤田介護福祉士、伊豆丸看護師
7月	1. 接遇 2. 倫理、プライバシー保護	1. 秋山看護師 2. 伊藤介護福祉士
8月	1. 褥瘡・MDRPU予防、創傷処置 2. ポジショニング・クッション管理	1. 芝看護師 2. 豊永介護福祉士
9月	1. 記録、当院の記録に関するルール	1. 大山看護師
10月	1. 感染管理、食中毒(経路別予防策、標準予防策 PPE着脱訓練含む)	1. 田淵看護師、伊藤看護師
11月	1. 災害時対応(情報システム、トリアージ)	1. 津野看護師、上島看護師
12月	1. 排泄ケア(自部署での取り組みも含む)	1. 池本介護福祉士(藤田看護師)
1月	1. 認知症ケア	1. 宮地介護福祉士主任
2月	1. 看取りケア、エンゼルケア(ACPについて)	1. 戸田看護師
3月	1. 自立支援 2. レクリエーション	1. 森本介護福祉士 2. 井上介護福祉士

(文責：看護師長 大石 陵子)



## 外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

### 1 概要

病棟形態：外来	
所属長名：片岡 典代	
構成職員：	
看護師	10名
准看護師	4名
介護福祉士	1名
保育士(病児保育)	2名
看護助手	1名
合計人数	18名



### 2 2022(令和4)年度 目的・目標

- 安全で質の高い看護の提供をする
  - ① コロナ禍での対策をとり、安全、安心できる看護を実践する
  - ② 各科看護単位での専門性を発揮した看護実践力の向上に努める
  - ③ チーム医療で連携をとりながら患者の療養支援につなげる
- 働きやすい職場環境をつくる
  - ① 年間5日の有給休暇を取得し、公平な有給消化を目指す
  - ② ワーク・ライフ・バランスを意識した業務遂行に取り組む
  - ③ 個々の自己実現に向けて、お互いが協力できる風土をつくる
  - ④ 応援体制・勤務体制に柔軟な対応をする
- より良い看護を提供する
  - ① 病院の入り口を意識した、接客強化に努める(態度、身だしなみ言葉遣い、マナー)
  - ② 一人ひとりとの関わりを大切に、外来受診者が満足できるよう関わる

### 3 目標に対する取り組み

- 1) コロナ禍を意識した対策をとり、手順にそって看護実践を行った。外来患者数(前年比109%)、訪問診療件数(前年比121%)、新型コロナワクチン接種件数(3,585件・前年比52%)だった。病児保育の受け入れ制限をしており、特に保育士・看護助手の協力があって協働しながら外来チームとして患者へ関わることができた。
- 2) 年間5日の有給休暇を取得し、公平な有給消化を目指し、お互いが協力できる風土づくりに取り組んだ。出産や家人の県外転勤による止むを得ない退職以外離職はなく、職場環境構築に取り組むことができた。

### 4 次年度の課題

1. Withコロナ(新型コロナウイルスとの併存)における、感染対策を考慮した安心・安全な質の高い外来看護・病児保育を提供する
2. ワークライフバランスを考慮した、働きやすい職場環境をつくる
3. 自己研鑽に努め、タスクシフティングに向けて取り組む

### 2022(令和4)年度【部署名：外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	医療者に求められる基本的マナーと危機的状況における接遇とは	ナーシングスキルライト聴講
5月	コロナ禍で患者と取り組む医療安全	ナーシングスキルライト聴講
6月	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の基礎知識(全職種向け)	ナーシングスキルライト聴講
7月	災害時の医療と看護(スタッフ編)	ナーシングスキルライト聴講
8月	～新人からベテランまで誰もが知っておくべき～ やさしい心電図の読み方・基礎編	ナーシングスキルライト聴講
9月	12誘導の心電図の読み方・レベルアップ編	ナーシングスキルライト聴講
10月	救急対応	ナーシングスキルライト聴講
11月	家族看護・応用編	ナーシングスキルライト聴講
12月	看護記録～基礎編～	ナーシングスキルライト聴講
1月	多職種で取り組む転倒・転落予防	ナーシングスキルライト聴講
2月	感染対策の具体	ナーシングスキルライト聴講
3月	SNSの危ない使い方～こんな投稿していませんか～	ナーシングスキルライト聴講

(文責：外来師長 片岡 典代)

## 医療技術部門



### 薬剤室

#### ①概要

所属長名：小野 正英  
 構成職員：薬剤師 4名  
                   事務員 1名  
                   合計人数 5名

#### ②活動内容・目標に対する達成状況

##### 1. 活動内容

- ①適正な医薬品管理  
後発医薬品の使用を進める（80%以上維持）  
破損・期限切れ医薬品を減少させる
- ②相手を思いやる・尊敬する

##### 2. 薬剤の保管・管理の検討

令和4年度も、令和3年度に引き続き後発医薬品の出荷停止や出荷調整の影響が続いており、安定供給ができる代替後発医薬品を揃えることが難しく一部の医薬品において、やむを得ず先発医薬品に戻さざるを得ない医薬品がでたことで、後発医薬品の使用率は77.7%にとどまった。処方箋枚数においては入院患者さんが減少していることから、内服・外用薬の処方箋枚数は5,574枚と令和3年度に比べて減少したが、注射薬の処方箋枚数は8,425枚と令和3年度に比べて大幅に増えた。これは当院の新型コロナウイルス感染症の入院患者さんは高齢者が多いことから、主に注射薬を使用したと考えられる。また



高額な注射薬の取り扱いが増えたことより破損や廃棄が出てしまったことは否めないと考える。

#### ③今後の課題

薬剤師の免許は持っているが病院や調剤薬局で働いている人材は少ない。そのため少人数で業務を行うことから仕事が忙しくなりがちである。こう言ったことより令和4年度も、「②相手を思いやる・尊敬する」という目標をあげたが、当院で仕事をしたいという問い合わせはあったが人材の確保には至らなかった。今後、薬局内の見学や実習も業務の一環と考え薬剤師の確保を勤めていく必要がある。

（文責：室長 小野 正英）



### 放射線室

#### ①概要

所属長名：廣田 任成  
 構成職員：診療放射線技師 2名  
                   合計人数 2名

#### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 目標であった撮影件数の回復とCT検査の件数増加については、整形外科の診療日数減少や新型コロナウイルス感染の影響により、他病院からのCT依頼の減少などもあり、目標の達成はできなかった。昨年度と比較して全体で6%減少した（一般撮影11%減少、CT検査14%減少、US38%増加、胃透視検査21%減少、健診7%増加）。その他の目標については達成できたと思う（CT検査の個人被ばく管理、放射線の安全管理、電



離放射線健康診断の届け出、業務拡大に伴う講習会での認定書の所得）。

2. 以前からの大きな課題であった、機器の更新について、透視装置、一般撮影装置は、昨年12月に機器の更新を行うことができた。機器の更新につ

いては大変うれしく励みになった。

昨年同様に新型コロナウイルスの対応としては、発熱時の患者さん撮影後の環境衛生や換気などを行った。

### ③今後の課題

1. 透視装置、一般撮影装置が新しくなったことで、以前からの目標であったフィルムレス化をようやく実現することができた。透視装置については、画質、診断能が以前に比べ大幅に期待ができる。健診の胃透視検査をいかに増していけるかが課題になってくる。

一般撮影については、整形外科の診療日数減少で今後どのように撮影件数の回復を行っていかれるかが大きな課題である。

2. 機器については、病室撮影用のポータブル撮影装置が機器購入から20年以上が経ち壊れた場合、部品がなく修理ができない状況である。病室撮影については、胃管チューブ挿入後の撮影なども新たに行うようになり件数が増加してきている。機器更新までの間いかにもたせられるかが大きな課題である。

(文責：放射線室主任 廣田 任成)



## 臨床検査室

### ①概要

所属長名：柴田 美智子

構成職員：臨床検査技師 4名

合計人数 4名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 前年度に引き続き一般検査は減少しているが、血液、生化学、生理、外注検査共に実績件数は増加し、令和2年度を上回る程になっている。免疫検査は、コロナ関連の抗原検査、PCR検査が増えたため増加している。コロナ関連の件数は前年度1,938件であったが、本年度4,407件となった。外来など他部署の協力をいただきながら、実施してきた。生理検査は聴力検査、負荷心電図、ホルター心電図と共に、本年度より始めた心臓超音波検査の件数が増えてきた。
2. 目標である機器管理、精度管理については、怠ることなく実施したし、問題点は改善している。患者さんの待ち時間を少なくするよう、他部署との連携で実施した。自己研鑽では、外部精度管理時に以前は参加していなかったフォトサーベイにトライしたことにより再度勉強するいい機会となった。



### ③今後の課題

1. コロナPCR検査、生理検査、検体検査を2人の技師で対応する場合が度々あったが、正確、迅速な検査の提供をすることを目指した。今後、生理検査が増えてくると今のままの技師数、部屋数では、対応が難しくなる可能性があり、業務の効率化が重要である。
2. 心臓超音波検査では、実施時未経験の技師に教えており、全員が実施できるように勉強を始めた。部署内での知識や技術の共有化とレベルアップを図る。

(文責：臨床検査室長 柴田 美智子)



## 栄養管理室

### ①概要

所属長名：石山 由香

構成職員：管理栄養士 3名

合計人数 3名

給食業務委託会社：富士産業(株)

- ・栄養マネジメント強化加算の実施
- ・栄養アセスメント加算の実施
- ・経口・栄養スクリーニング加算の実施
- ・栄養指導
- ・病棟カンファレンスの参加
- ・実習生受け入れ
- ・食と栄養の会編集員
- ・嚥下内視鏡検査食の提供

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

## 2. 目標に対する達成状況

### 〔目標〕

- ①入院患者さまおよび入所者さまの病状・病態に応じた食事提供を行う
- ②継続した栄養指導を行う
- ③研修会など積極的に参加し、自己研鑽に励み日々の業務に活かす

### 〔達成度〕

- ①それぞれの患者さまおよび利用者さまの病状に応じた食事の提供を行うことができた。また、食事摂取量の少ない方に対しては、多職種で介入し食事形態や口腔内の機能、嚥下状態、薬の内容、食事時の姿勢などに対して評価を行い、個々の患者さまにあった食事内容の提供を行うことで摂取量増加につなげている。
- ②継続して栄養指導を希望する方や、繰り返し指導が必要と判断された方は、引き続き栄養指導を行っている。アドバイス内容を実践できているか、改善点や問題点があるかなど確認しながら現状に応じた食生活のアドバイスを行うことができた。
- ③院内外研修会には積極的に参加し新たな知識・アイデアなどを得ることができ、患者さまの治療に貢献し、信頼と満足を得られるよう努めている。



### ③今後の課題

安全で安心して食べられる食事、さらに患者さまのQOLの改善を目指す食事の提供をするためには、受託および委託間での給食管理について意識統一を図る。また、よりよい食事提供できるように学会や講習会、研修会に積極的に参加し、医療人として常に研鑽に努めたい。

### ④まとめ

栄養管理室では、富士産業（株）の委託のスタッフと共に、個々の患者さまに合わせた対応を行い衛生的でより安心な食事提供に努めたい。また、病院食は「治療・栄養教育・健康維持」を目的としているが、それだけでなく、入院生活の中で患者さまの楽しみの一つである「食事」をより満足していただくことも重要と考えている。今後も連携をとり、スタッフ一同、患者さまに満足していただける食事作りをしていきたいと考えている。

（文責：栄養管理室主任 石山 由香）



## リハビリテーション課

### ①概要

所属長名：門脇 貴代  
構成職員：理学療法士 8名  
作業療法士 4名  
言語聴覚士 3名  
合計人数 15名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

コロナ禍が継続し、病棟稼働率や入院患者処方率の低下が常態化する中、リハビリテーション部門では感染対策と訓練実施の判断の追求と、有意義な時間の活用を努力をした。

#### 1. 地域に対するリハビリテーションの提供

一般社会ではwithコロナが広がりはじめ、地域での活動も再開されてきたことから、継続して行っている民間介護予防事業への安定実施が確実となった。アンケート調査も実施し、高い満足度が得られた。

また、そこでの取り組みを高知糖尿病チーム医療研修会で発表することができ、事業に興味を持っていただけたとともに評価が得られた。

#### 2. 病棟の役割に応じたりハビリテーションの提供と感染対策

感染症の動向に応じて介入手順や内容を臨機応変に検討し、可能な限り入院日から訓練ロスのないように対応を行った。加えてコロナ病床での訓

練も開始した。

また、専門職として包括ケア病床患者の方向性の決定や取り組みに積極的に関与した。

### 3. 採算性への努力

前年度比で実働日数97.4%、延べ対象患者数89.3%の状況において102.2%の算定をあげることができた。

### ③今後の課題

1. 感染対策による入院後一定期間の個室対応により、タイムリーな介入が困難であることや実施環境面の問題から患者・スタッフともにストレスの

かかりやすい状態であった。

また、居室外での活動が著しく制限される患者が多くある中で、生活リズムや残存能力の減退を危惧し、あせりや虚無感を感じやすい状態であった。

2. 今後は本格的なwithコロナへの対応として、感染リスクと同居した訓練実施の確立を行い、訓練ロスの期間をできるだけ短縮することで、患者の機能・能力維持や早期退院につなげるとともに、採算性における目標達成に努力する。

(文責：リハビリテーション課長 門脇 貴代)

## □ リハビリテーション課 理学療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 8名

合計人数 8名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供  
民間介護予防事業「紡」での健康教室の開催は、4年目となり、今年度は当院のクラスターの影響はなく、月2回、24回開催できた。内容も、利用していただく方にアンケートを行い、より興味のある内容となるよう、常にブラッシュアップを行った。結果、利用者数も延べ245名と前年度を大きく上回った。
2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供と感染対策  
引き続き、感染対策を念頭に置き、介入時間の調整や訓練室をゾーニングするなど、早期にリハビリテーションが行えるようにした。特に包括病棟は退院を見据えた訓練や日程調整が必要となるため、カンファレンスへの積極的な参加や病棟、相談員、CMとの連携を密に行うよう努力した。また患者担当スタッフが休みの際にもスムーズな介入が行えるよう調整を行った。
3. 採算性の努力  
令和4年11月末よりリハ助手が体調不良のため休職となりそのまま退職となった。そのため、リハビリ室内の細々とした雑務をスタッフ全員で分担することとなり、時間配分に苦慮することになった。主任会で業務の見直しや分担などを検討し、一人ひとりの負担の平準化を行い、リハ業務への影響を最小限とするよう努めた。



### ③今後の課題

1. 地域の介護予防に貢献できるリハビリテーションの提供  
民間介護予防事業「紡」だけでなく、今年度から香美市香北町の出張健康教室にも2カ月に1回講師として参加することになっている。地域からはやや遠方となるが、新たな経験として積極的にスタッフに経験してもらいたいと思う。
2. アフターコロナへの対応を含めた適切なリハビリテーションの提供  
コロナの感染はなくならない中、いかに患者に不利益とならないように介入ができるか引き続き検討が必要である。アフターコロナへの患者への対応だけでなく、包括ケア病棟ではスピーディな対応が必要となってくるため、病棟、地域連携室との情報共有も電子カルテを利用し、確実にやっていく。
3. 適切で確実な感染対策の継続  
病院の方針に準じ、柔軟な対応ができるよう、スタッフ全員への周知徹底を行う。また現在も行っているが、PPEの着脱方法を月1回確認することで全員が同様の対応ができるよう、今後も実施していく。

(文責：理学療法室 主任 濱田 くるみ)

## □ リハビリテーション課 作業療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代  
構成職員：作業療法士 4名  
合計人数 4名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供  
民間介護予防事業「紡」は、コロナ感染者数が落ち着いてきたこともあり、定期的な実施が可能であった。OTは「今年の干支の小物を作ってみよう」「中性脂肪がグッと下がる食事と運動」「自律神経を整えよう」「秋こそ代謝効率アップ」の4つのテーマで講座を担当した。今後も定期実施のテーマに加え、OTとしての特性を活かした講座を提供していきたい。
- 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供と感染対策  
包括ケア病床では、整形外科疾患の術後や回復期リハビリを経由し、自宅や在宅関連施設へ退院予定の患者、廃用の立ち上げのための短期集中リハビリ目的の患者など、限られた期間の中でより効率的で効果的なリハビリを提供する必要があった。また、院内や市中でのコロナ感染状況に合わせて変更していくリハビリの実施手順に則り、的確に介入できた。

### 3. 採算性への努力

入院患者数は前年度比101.6%と増加したものの、コロナ前には戻らず、リハビリ対象患者も89.3%と厳しい現状が続いた。その中で、各職種がより協力し、より効率的に介入し採算を上げられるよう努力した。

### ③今後の課題

市中の感染状況により、病棟での感染対策が刻々と変わる中、入院後、一定の隔離期間があることや、病棟での感染対策による介入の制限など、リハビリの実施においてストレスの多い状態が続いた。今後も感染状況や病院の対策に合わせながら、より患者の不利益とならないような対応ができるよう、他部署と協力しながらリハビリを提供していきたい。

(文責：作業療法室主任 竹倉 佐和子)

## □ リハビリテーション課 言語聴覚療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代  
構成職員：言語聴覚士 3名  
合計人数 3名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供  
・民間介護予防事業「紡」において継続的に講習会を開催することにより、STの知名度向上に貢献できた。コロナによる制限も徐々に緩和され、参加人数も安定するようになった。
- 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供  
・各病棟ともに摂食機能療法のニーズが高く、評価依頼が多かった。入院時には管理栄養士とともに食事摂取状況や内容の聞き取りを実施し、前医からの引き継ぎがスムーズに移行できるように努めた。

- ・介護医療院においても同様であったが、経口摂取可否の判断や食事内容、量の調整がメインとなることが多かった。多職種との連携に重点を置き、コミュニケーションを密に取りながら進めていくように努めた。
- ・院内研究会にて経管栄養から経口摂取に移行したケースの症例報告を行った。STの訓練内容や多職種との連携に向けた取り組みについて発表を行

う良い機会となった。

### 3. 採算性への努力

前年度に引き続きコロナ禍での業務実施となり、病棟の感染状況によってリハビリ介入自体がストップとなる状況があった。また、助手の退職により掃除や洗濯などの雑務、訓練道具の作成などをスタッフが実施するようになり、実務時間が減少した。

### ③今後の課題

令和4年度も、引き続き感染症対策を確実にいながら実施してきた。STに期待される役割としてはや

はり摂食機能療法が挙げられるが、依頼数に比べてVE/VFの実施件数は少ない状態である。今年度からはNSTが稼働予定であるため、カンファレンスや勉強会を通じて啓蒙活動を実施していき、VE/VFの実施件数増加につなげていきたいと考えている。

また令和5年度は、前年度の院内研究発表会でのケース発表を、慢性期医療学会にて発表することになっている。院内研究会での発表内容を見直し、より良い発表となるよう言語聴覚療法室全体で取り組んでいきたいと考えている。

(文責：言語聴覚療法室主任 谷口 桃子)

## □ リハビリテーション課 訪問リハビリテーション三愛

### ①概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士(P T) 1名

合計人数 1名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### ①コロナ禍における感染対策と事業の継続

事業所職員は、適切で確実な感染対策を徹底した上で業務を継続できた。これにより、利用者の健康管理と在宅生活を継続しつつ、採算性を確保することができた。

#### ②LIFE（科学的介護情報システム）へ情報提供

利用者情報を「LIFE」へ提供。「LIFE」からのフィードバックを活用し、軌道に乗せることができた。

#### ③リハ課スタッフ、他職種との連携

リハビリテーション課内や通所リハビリテーション「ファイト」、デイサービス「いろは」との情報共有と連携を行った。課内での情報共有では、在宅や在宅関連施設へ退院見込みの患者など新規利用者の紹介や情報が得られ、短期集中リハビリテーション加算などを取得することができた。また事業所内ではケース検討会を実施し、課題や情報の共有を図り、より良いサービスの提供や目標達成に取り組んでいる。「ファイト」や「いろは」との間では、実生活の様子や利用者の動作達成状況が共有できた。

#### ④広報活動の実施

地域介護予防の一環として、運動教室や民間の介護予防事業「マルナカ紡」へ参加し、地域住民の健康寿命の増進に貢献することができた。また、東部地区地域ケア会議へ参加し、各事業所に対し、当事業所のチラシ配布を行うなど広報活動を継続している。



### ③今後の課題

1. 訪問リハビリ電子カルテへの移行準備
2. 事業所の広報活動、新規利用者の獲得
3. 利用者のニーズに応じた職員の訪問
4. 令和6年度の介護報酬改定に向けた情報収集
5. ウィズコロナからアフターコロナへ、感染対策の継続

1. 「LIFE」の活用を軌道に乗せ、今後は「ほのぼの」電子カルテ移行に着手する方向で準備を進め、システム構築に努めている。今後も訪問リハビリテーション事業所として専門性の高いサービスで在宅生活を支えていきたい。
2. 母体病院からの利用者獲得の困難性は継続。加えて、現利用者の入院や通所系サービスへの移行により全体数は減少傾向。院内や同グループ内施設との連携はもとより、近隣施設への情報収集や広報活動を積極的に行う。
3. 現在訪問リハビリ担当はPTだけであり、利用者個別性の課題解決や目標達成のために、OTやST職員のサービス提供など、個々の「個性」、「ニーズ」を実現できる方法を模索していく。

(文責：理学療法士 高橋 良昌)



## 地域医療連携室

### ①概要

所属長名：	戸田 里子（師長）
	澤田 恵里（主任）
構成職員：	看護師 2名
	社会福祉士 3名
	合計人数 5名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 安定したベッドコントロール

本年度の入院相談件数は269件。受け入れ率は56%で前年度と大差なかった。

機関別入院相談件数は、高知赤十字病院63件、細木病院28件、高知大学病院28件、いずみの病院24件、近森病院22件、高知医療センター 11件である（以下はグラフ①参照を）。

前年度より各病院からの相談件数自体は増加しているが、感染症患者の発生などベッドコントロールが困難な時期があり、お断りする件数も多かった。

外来病診連携件数は228件。他院への紹介が179件で前年度同様、高知大学病院への紹介が最も多かった。当院への紹介は49件。皮膚科が平日新設されたこともあり、前年度より紹介先医療機関の幅が広がっている（グラフ②参照を）。

地域包括ケア病床の本年度運用実績は、在宅復帰率平均88%（前年度85.4%）、自宅からの入院平均64%（前年度39.5%）、緊急入院平均10.9人（前年度7.2人）、A項目平均31.7%（前年度28.6%）と、安定した実績で運用できた。特に緊急入院は3カ月で9人の入院を必要とするようになったが、医師・外来看護師の協力の元、基準を落とすことなく対応できた。

病院全体の退院件数は238件で、自宅への退院が86件、施設入所が56件、転院が26件、死亡退院が70件だった。



#### 2. 職員の定着

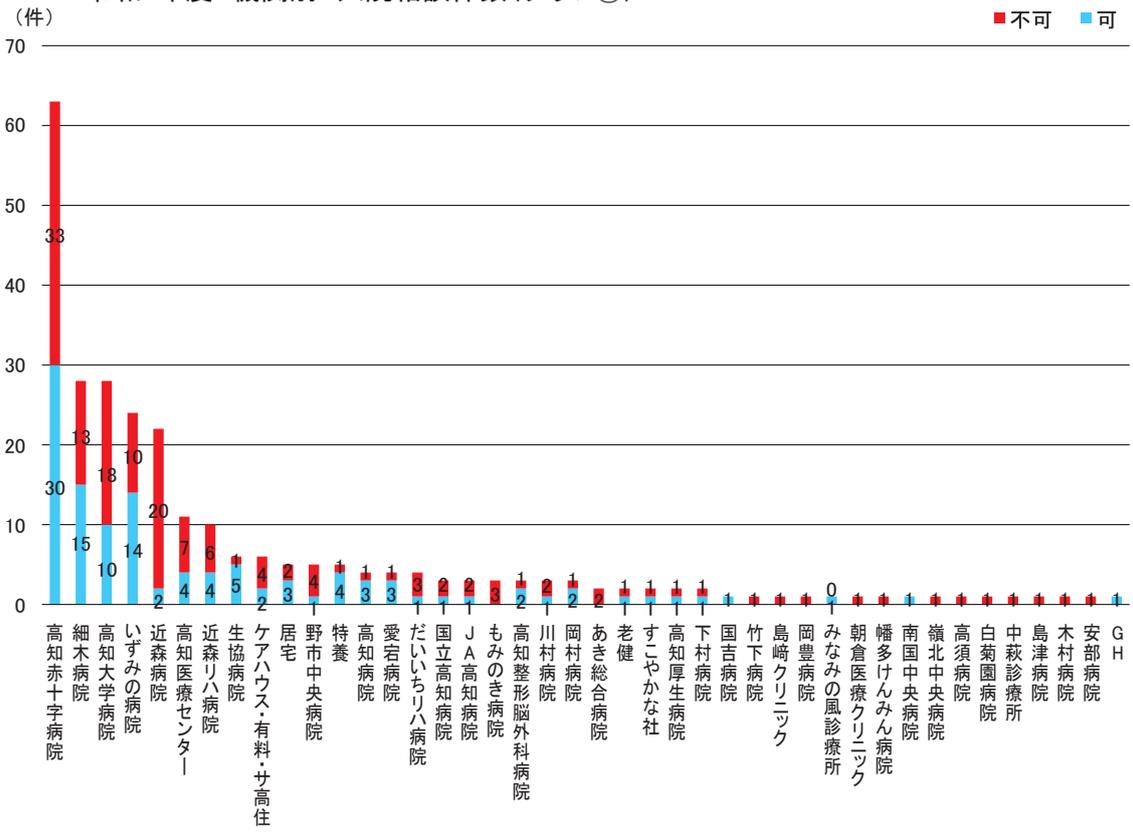
前年度は新人MSWを1名迎え、教育に力を注いだが、本人の都合により1年で退職となった。令和4年度は6月に新たにMSWを1名迎えた。MSW経験者のため外来、地域包括ケア病床、障害者病棟の患者を幅広く担当してもらった。当院の特徴を的確に理解し、相談受付時にも臨機応変にその場で対応できた。退院調整でも経験を活かし幅広く社会資源を活用し円滑に対応できた。

### ③今後の課題

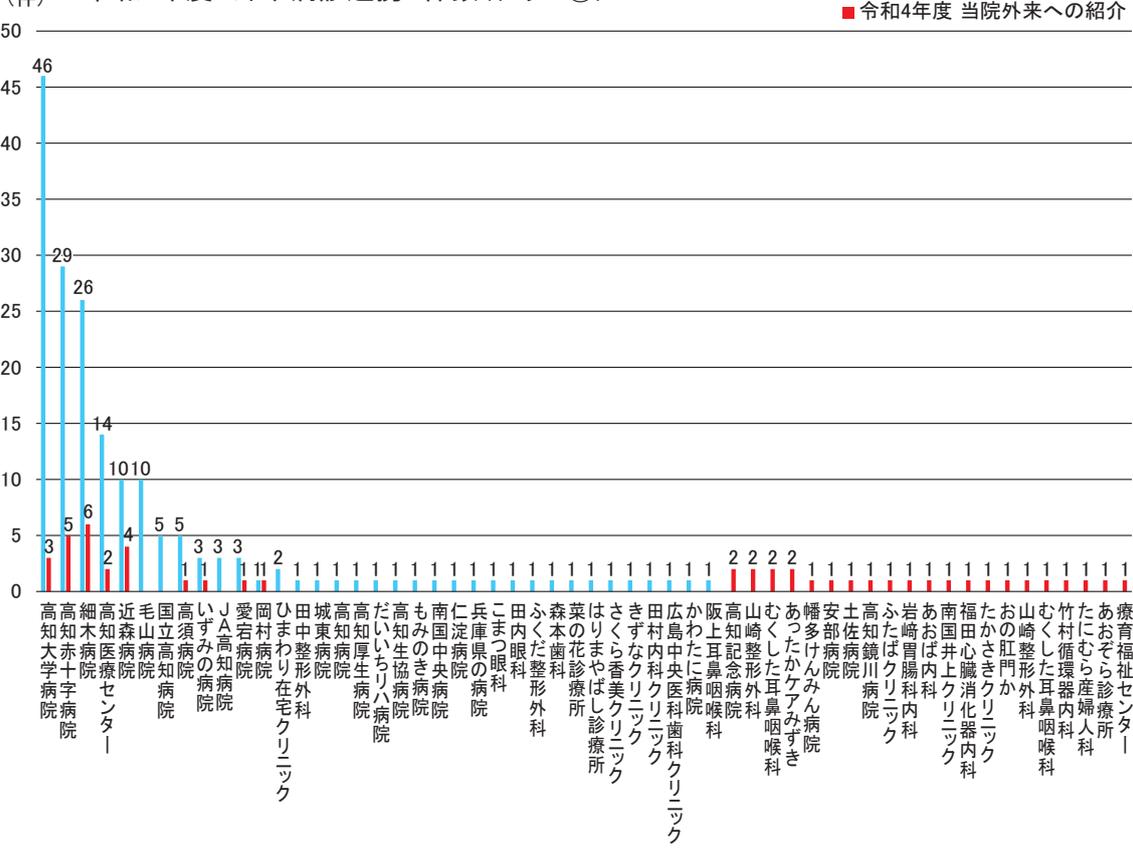
1. 本年度は、前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受け、稼働率の伸び悩みが課題であった。ある程度長期療養の患者の確保が必要であると実感しているため、引き続き特養からの住み替えを相談いただくような関係づくりや、今年1月に近隣に看護小規模多機能の事業所が開設されたため、今年度は、近隣施設との情報共有に努めていきたい。

2. 地域医療連携室は2年半、地域包括ケア病床の運用も2年を経過した。関連部署とのカンファレンス開催により、退院支援の目標を共有するなど、地域包括ケアシステムの一機関としての役割を果たしているように感じる。外来の病診連携も連携機関の幅が広がっており、今後も研修会や営業による情報共有にて、院外との連携を深めていきたい。

令和4年度 機関別 入院相談件数(グラフ①)



令和4年度 外来病診連携 件数(グラフ②)



(文責：師長 戸田 里子・主任 澤田 恵里)

## 事務部



事務部長  
植田 宏平

### 1 概要

所属長名：部長 植田 宏平  
構成職員：1名

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

#### 『活動内容』

事務部は、総務課、医事課の2部門で構成されており、三愛病院グループを円滑に運営するために各部署の連携を支えながら、三愛病院グループ運営のための企画、提案、業務の効率化、コスト管理などの予算管理、情報管理とそのセキュリティ管理および行政の対応など多岐にわたる業務を行っています。さらに新型コロナウイルス感染症対策、大規模災害などの有事には情報収集や行政との調整窓口など病院運営に必要なあらゆる庶務を行います。

#### 『令和4年度三愛病院事務部の目標』

・三愛病院グループ運営への参画意識を強く持ち、実行できる、達成できる事務部門を目指す。  
また新型コロナウイルス感染症の感染フェーズ対応を柔軟かつ的確に行う。

1. 事務職員各自が責任感をもって、それぞれの担当業務を迅速かつ正確に行うとともに、担当業務外の業務にも積極的に参画し知識のさらなる向上を目指す。
2. 事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、法人内他施設との協同も積極的に行い、知識、熟練の向上のため研鑽に励む。
3. 事務部の次世代リーダーの育成と、事務職員全体のポトムアップを目指す。
4. 事務部の貢献度、評価を高めるために、高いコミュニケーション力を育て、さまざまな部署と連携、協力を深める。
5. 三愛病院における新型コロナウイルス感染症対策に積極的に協働する。
6. デジタル化とオンライン環境の拡充を行い、利便性と確実性の向上に努める。

#### 達成状況

1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に柔軟で迅速な対応を行い、検査協力医療機関、ワクチン

ン接種医療機関及び新型コロナウイルス感染症患者受け入れの重点医療機関指定に関する補助申請や、感染フェーズの変更に対応し病棟再編成および関連の届け出事務を的確に行った。

2. 法人内の他の事務部門と協働し立案、提言等の連携協力を積極的に行った。
3. 事務職員全体の人材育成も進み、実行できる、達成できる強い事務部門が確実に形成されている。

令和4年度の目標に沿った取り組みの成果は以下の通りです。

1. 新型コロナウイルス感染症対策  
新型コロナウイルス感染症 検査協力医療機関、ワクチン接種医療機関および新型コロナウイルス感染症患者受け入れの重点医療機関に係る補助申請・事務処理を迅速に行い、三愛病院における感染対策体制の構築に寄与することができた。
2. 事務部の次世代リーダーの育成として総務課長が存分に能力を発揮し、新型コロナ対応や補助申請において中心的な役割を果たした。事務職員全体のポトムアップに関しては総務課主任クラスの業遂行能力が飛躍的に向上し、それに伴う形で事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、知識、熟練の向上のため研鑽に努め事務処理能力が大きく向上した。また医事課においても個々のスキルアップと業務の効率化が順調に行えた結果、残業時間の最小化を維持した。  
結果として事務部門の離職率が極端に減少した。

### 3 今後の課題

1. 次世代医師の確保  
診療部門における次世代医師の確保と、育成および働き方改革の推進をすすめ、安定した病院運営を目指す。
2. 新型コロナウイルス感染症対策  
新型コロナウイルス感染症に対して社会医療法人としての公的役割（重点医療機関、検査協力医療機関、ワクチン接種医療機関）を継続しつつ、アフターコロナの病院運営の在り方を模索する。
3. ここ数年で急激に進んだ三愛病院グループのデジタル化に対応し、徹底した情報セキュリティ対策を行い、データの漏洩や不正アクセスなどのリスク最小化と職員教育を適切に実施する。

（文責：事務部長 植田 宏平）



## 総務課

### ①概要

所属長名：課長 猪森 清明  
 構成職員：主任 2名  
 事務員 3名  
 施設係 4名  
 合計人数 10名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院の目標と取り組みの達成に向けて積極的に関わる
  - 1) ホームページのリニューアル
  - 2) 介護医療院に介護ソフトほのぼの導入およびサーバークラウド化
  - 3) 新型コロナ対応への積極的参加
  - 4) 診療報酬改定に伴う業務
2. 質の向上に取り組む（課員レベルアップを目指します）
  - 1) 業務の効率化  
業務分担の整理や業務に対するスケジュール管理・進捗状況の共有、エビデンスに基づいた業務を行う。  
問題意識をもって業務にあたり、各人考える力を身に付ける。
  - 2) 法改正業務  
順次施行される法改正のポイントを理解し、内容に応じて諸制度を整備し周知していく。
  - 3) その他  
安全運転講習の開催。  
本年度より運転者に対して、アルコールチェックの義務化。

令和4年度は、前年同様新型コロナウイルスの影響もあり、対応策に多くの時間を費やした。そのような中でも、目標に挙げていた内容については、一定の成果を挙げる事ができた。

ホームページについては、11月にリニューアルし閲覧数も伸びてきた。今後も当院の特徴が分かりやすい病院情報の発信を行っていききたい。

また、介護ソフトほのぼのについても、主体的に取り組む12月にサーバークラウド化の完成、令和5年4月より介護医療院さんあいでの運用を開始した。

新型コロナウイルス関連では補助金の申請や、患者さんの入退院対応、検温トリアージ、オンライン面会

立ち上げから実施など、積極的に関わることができた。

アルコールチェックの義務化に対しても、管理簿を作成し検知器を用いた検査を実施した。

### ③今後の課題

当院の総務課は総務、人事、労務、経理、用度、IT、施設と多岐にわたっており、さまざまな知識とスキルが求められる。そのため個人のスキルアップも重要なポイントとなっている。

業務に関しては、役割分担をより明確にし、給与業務や社会保険関連、各種届け出や年度の特有業務など計画性をもって行い、スケジュール管理や進捗状況の共有など、総務課内の連携を図った。

また、人材育成として、実務に対して問題意識をもって取り組むこと、各人が考える力を身につけること、エビデンスに基づいた処理を行うことに重点を置き、規程や法制度を良く理解するように読み解きや調べることを重要視した。

これによる課員の制度・規程の理解度や問題点の見つけ方、解決への方向性の見いだし方などの効果は出てきた。

また、日頃から会話でコミュニケーションを取り、情報共有の重要性についても理解を求めた。

これらのことは今後も徹底して行い、事務部門強化に努めていきたい。

今後もまだまだ影響を受けるであろう新型コロナウイルスについても、ウィズコロナに順応した病院運営を理解し、状況の変化にアンテナをはり、積極的に関わっていききたい。

(文責：総務課長 猪森 清明)



## 医事課



### ①概要

所属長名：課長 山本 淑恵

構成職員：

課長・診療情報管理士・施設基準管理士	1名
主任(外来・診療情報管理室 兼務)	2名
入院事務(診療情報管理室 兼務 1名)	2名
外来事務(うち1名パート)	7名
介護保険事務(医療院・老健・在宅等全般)	3名
健診室事務	1名
合計人数	16名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

診療報酬改定への対応力および、医事業務の精度向上  
診療報酬改定への柔軟な対応とともに、新型コロナ関連の特例項目についてタイムリーな情報収集を行うことができた。レセプトの返戻率も低下し、入院請求に関しては査定がなかった月もあり、年間を通して目に見える成果を出すことができた。部署内での勉強会なども積極的に開催し、医事以外の内容にも視野を広げている。

#### 患者満足度および業務効率アップ

新型コロナに関連してさまざまな変更点があり、請求方法や患者さまへの説明、案内なども大幅に増加

し対応に苦慮する場面もあったが、スタッフ間の連携や最新の情報共有に努め、患者さまの立場に立った分かりやすく親切な接遇を心掛けた。今後も患者満足度アップを目指して体制を強化していく。

### ③今後の課題

#### 業務の効率化と保険請求業務の精度向上

現在の実務状況を踏まえて、これまでの業務手順を見直し、詳細マニュアルの新規作成に着手し、必要な作業の明確化と効率化を図る。

新型コロナ関連の特例診療報酬への対応、算定漏れの削減、返戻率の安定化を継続することなど、保険請求の精度向上を図る。また、緊急時などに業務に支障がないよう一人担当から複数担当制へ順次移行し、安定した体制を整えていく。

#### 人材育成

医療事務のレベルアップにとどまらず、多様化する医事業務に対応できる診療情報管理士・施設基準管理士などの育成を推進していく。また、病院の窓口として、患者さんからも職員からも信頼される、接遇能力・対応力の向上を目指す。

(文責：医事課長 山本 淑恵)



## 診療情報管理室

### ①概要

所属長名：山本 淑恵

構成職員：課長 (医事課・診療情報管理士・

施設基準管理士 兼務)	1名
主任 (医事課 兼務)	1名
事務 (医事課 入院 兼務)	1名
合計人数	3名



## ②活動内容・目標に対する達成状況

診療情報管理室の活性化および、専門性を発揮すること

コロナ禍ではあったが高知県での開催となった、日本診療情報管理学会の実行委員を務めさせていただき、他の診療情報管理士との交流ができたことは、今後の活性化への第一歩となった。

また、今年度は実務の改善策として診療情報管理室に専任者を配置することができた。これによって疾病分類コーディングなどの診療情報データ蓄積が安定的に収集できるようになり、院内研究会などでも分析結果を発表できるまでになったことは成果の一つとなった。

## ③今後の課題

診療情報管理の充実化・新規施設基準の提案

次期、医療介護同時診療報酬改定に備え、医療・介護それぞれの情報収集を積極的に行い、関係部署への情報発信を適宜行うなど、新規施設基準の開拓と提案に努め、収益アップを目指す。

がん登録・疾病分類コーディング・提出データの蓄積と分析および分類の充実化を図る。

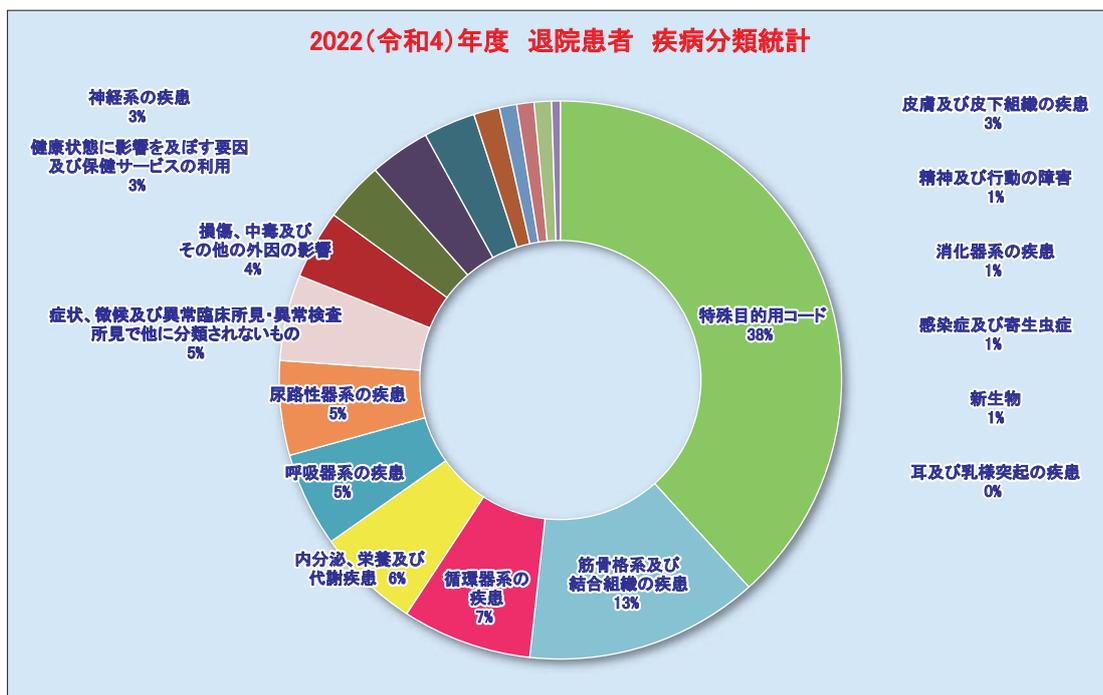
適時調査などに備えて、施設基準管理士会の中国・四国ブロック地域部会や全国規模で他の医療機関との積極的かつ有機的な交流を行うなど、管理体制の構築や対応力について他院からも学びながら体制を整備していきたい。

### ■ 2022(令和4)年度 退院患者統計

疾病分類	件数
特殊目的用コード	77
筋骨格系及び結合組織の疾患	27
循環器系の疾患	15
内分泌、栄養及び代謝疾患	12
呼吸器系の疾患	11
尿路器系の疾患	11
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10
損傷、中毒及びその他の外因の影響	8
皮膚及び皮下組織の疾患	7
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7
神経系の疾患	6
消化器系の疾患	3
精神及び行動の障害	2
新生物	2
感染症及び寄生虫症	2
耳及び乳様突起の疾患	1

高知市 退院患者	
一宮	68
江ノ口	15
秦	13
潮江	12
旭街	11
長浜	7
朝倉	5
介良	5
小高坂	5
初月	5
春野	4
三里	4
鴨田	4
高須	4
下知	2
南街	2
上街	1
大津	1
五台山	1
合計	169

高知縣市町村別 退院患者数	
高知市	169
南国市	10
いの町	4
佐川町	2
土佐山田町	2
須崎市	2
檜原町	2
仁淀川町	1
中土佐町	1
土佐清水市	1
土佐市	1
土佐山	1
芸西村	1
香南市	1
越知町	1
野市町	1
吉川町	1
合計	201

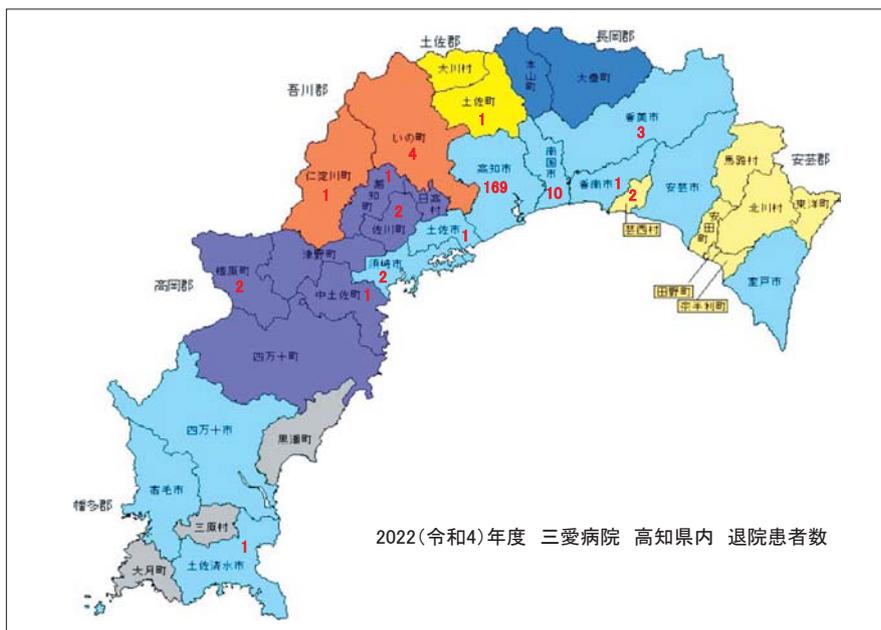
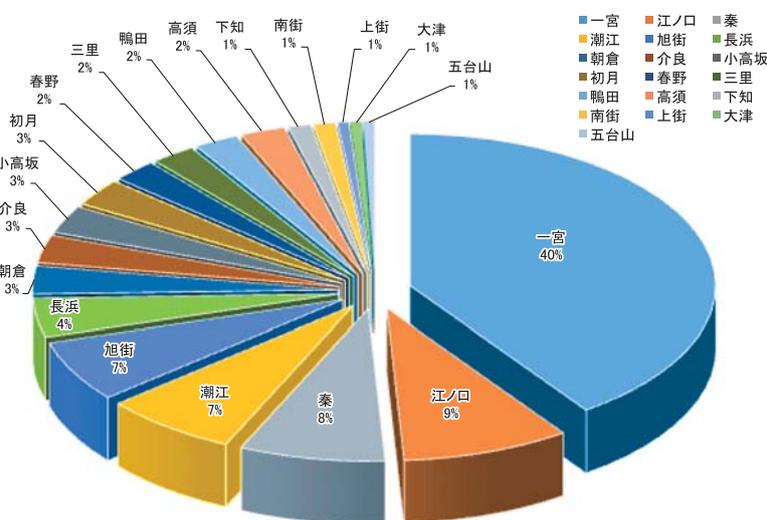


2022(令和4)年度 三愛病院 高知市内退院患者 診療圏(大街区分別)



高知市	令和4年度
一宮	68
江ノ口	15
秦	13
旭街	11
長浜	7
朝倉	5
介良	5
小高坂	5
初月	5
春野	4
三里	4
鴨田	4
高須	4
下知	2
南街	2
上街	1
大津	1
五台山	1
合計	169

2022(令和4)年度 三愛病院 高知市内退院患者 診療圏別割合



高知県市町村別患者数	
高知市	169
南国市	10
いの町	4
佐川町	2
香美市	3
須崎市	2
檮原町	2
芸西村	2
香南市	1
土佐市	1
土佐町	1
仁淀川町	1
中土佐町	1
越知町	1
土佐清水市	1
合計	201

2022(令和4)年度 三愛病院 高知県内 退院患者数

(文責：医事課・診療情報管理室 課長 山本 淑恵)

## 在宅部門



### 居宅介護支援事業所「一宮」

#### ①概要

所属長名：和田 真樹

構成職員：主任介護支援専門員 1名  
介護支援専門員 3名  
合計人数 4名



#### ②活動内容・目標に対する達成状況

介護保険制度だけの支援ではなくご本人やご家族・地域の方のお力を生かし、住み慣れたご自宅での生活を継続できるよう、地域に根差した居宅介護支援事業所となるよう取り組みを続けることができた。

##### 1. 事業所加算Ⅱを維持できる。

職員全体のスキルアップのため全員が講師となり事業所内の定例会を週1回、事例検討会を月1回以上開催できた。また、BCPの作成についても全員で取り組むことができた。

##### 2. 地域に根差した居宅介護支援事業所として、インフォーマルを活用した支援を行う。

コロナ禍で地域の催しへの参加は難しかったが、zoomを活用した周辺地域の事業所との交流ができた。

##### 3. 介護支援専門員倫理綱領に基づいた業務を遂行する。

毎朝の申し送りや定例会、事例検討会の機会を通して、倫理的な判断ができていたのかを振り返りながら業務を遂行することができた。振り返り

をしてもなお迷う場合や個々の事例で悩みもあるが、基本に基づき倫理的配慮ができる介護支援専門員の育成を継続したい。

#### ③今後の課題

1. 高知市介護支援専門員キャリアラダーモデルに沿った計画的な研修の実施と、実践につなげる取り組みを継続する。
2. BCPに基づき、地域を巻き込んだ訓練を実現させる。
3. 高知市居宅介護支援事業所協議会と高知市地域防災推進課との防災連携により、避難行動要支援者対策をすすめる。

(文責：主任 和田 真樹)



### デイサービスいろは

#### ①概要

所属長名：宮内 清

構成職員：  
看護師・機能訓練指導員兼務 2名  
介護福祉士・生活相談員兼務 3名  
介護福祉士 3名  
看護助手 3名  
生活相談員 1名  
合計人数 12名



#### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 新型コロナ対策の制限中でも利用者間での接触や交流、役割を持てるように活動、季節行事などを実施し、利用者が自立して在宅生活を継続できる

活動を支援する。

新型コロナ対策の影響もあり、年間を通して休む方が頻繁にあり、それ以外でも体調を崩され入院されるなどもあった。

前年から引き続き、感染予防のため、消毒や換気やマスクの着用の徹底と黙食などを実施し、利用者の目にも見える形で行うことで安心して利用していただくことができた。

利用者の生活状況に配慮した対応を行うことで新規利用相談からスムーズに受け入れができたが、前述の理由による減少があったため、利用者数の増加が思うように進まなかった。

2. 各職種それぞれのマニュアルの整備と合わせ、事業所内で技術、業務の基礎の振り返りを行い、技術の再習得とマニュアルの周知を行う。  
各種マニュアルの見直しを行うとともに職員が業務に追われる姿を利用者に見せないように業務の優先順位と取捨選択を心掛けて実施した。
3. デイサービスいろはの特色である、軽介助者が手芸などの作品に取り組み、達成感を得られるサービスを提供する。  
手芸などを通じて対人交流の活性化やオールドパワー文化展へ共同作品を出品するとの目標を達成したことなどで利用者から意欲的な発言を聞くこ

とができた。

さまざまなニーズに対して柔軟な対応をすることができており周知しつつある。

### ③今後の課題

1. 新型コロナ対策に一定の区切りがついたことで、手芸などを通じて利用者間の交流を積極的に進めていき、新たな交友関係を築くことができるよう支援をしていく。
2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる。  
新型コロナ対策の区切りを受け、地域のイベントなどへも作品出展などを通して参加していくことで地域内の各種団体にDSいろはの存在を周知していく。
3. 新入職員が定着できる環境づくり。  
中途採用者などに対する指導職員の固定を行い、それぞれの業務に対する統一した指導をする。

(文責：管理者 宮内 清)



## グループホームいろは丸

### ①概要

所属長名：管理者・主任 野町 喜代  
構成職員：

管理者(介護福祉士)	1名
介護支援専門員(介護福祉士)	1名
計画作成者(介護福祉士)	1名
介護福祉士	13名
看護助手	3名
合計人数	19名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. グループホームの特性を生かした生活環境を提供する  
コロナ感染拡大予防の観点から、上期は調理など一緒に作業を行うことや少人数での外出レクなど共同生活の場としての特性を生かすことは難しかった。また家族との交流の場もつくることできなかった。下期より少しずつ面会の緩和や外出後の健康観察などを減らし、特性を生かすよう取り組みを始めている。
2. コミュニティの一員として、地域とのつながりを大切にする  
コロナ感染拡大予防のため、運営推進会議は書面での報告が続き、一宮小学校など地域の方との交流も困難な状況が続いた。下期に入り運営推進会議の開催や建物周辺の散歩の際に出会う地域の方と簡単な挨拶を行うことから再開している。
3. 良質なケアが提供できるよう自己研鑽に励む

毎月のお茶の水ケアサービスの配信研修や院内主催の研修参加の機会が増えてきている。

研修の参加者には部署内への伝達を部署会にて実施している。伝達内容が感想中心となっているため、報告内容の周知を行う予定である。

### ③今後の課題

令和4年度はコロナ感染拡大予防のため上期は制限することも多く、利用者やご家族にも面会できないもどかしさがあった。面会方法も緩和し少しずつコロナ前の生活を取り戻せるよう皆で知恵を出し合い、基本的な感染対策を充分に行いながら、施設周りの地域の方々との支援の仕方を工夫し、閉じこもりにならないようつながりを取り戻すための積極的支援に取り組んでいく。

(文責：管理者・主任 野町 喜代)



## 高知市布師田・一宮地域包括支援センター

### ①概要

所属長名：管理者 小松 めぐみ

構成職員：

看護師・介護支援専門員	2名
社会福祉士・主任介護支援専門員	1名
社会福祉士	1名
介護福祉士・主任介護支援専門員	1名
合計人数	5名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### 目標

- 他部署との連携強化
  - 関係部署と連携し情報共有を図り、総合的な支援を行う
- 市民への啓発活動
  - 自立支援の理念啓発 ・健康講座
  - 認知症への理解 ・権利擁護に関する啓発
- 地域づくり
  - 高齢化しているマンションの実態把握と生活支援体制整備につなげる
- 自己研鑽
  - 地域のケアマネジャーの後方支援、多職種との連携に向け知識と技術の向上を目指す

#### 達成状況

- 特に外来・医師・地域医療連携室・居宅介護支援事業所・法人内介護保険サービス事業所との連携に取り組み、包括的な支援を行うことができたが、地域包括支援センターとして今後も引き続き他部署との連携強化を図り、地域と病院・在宅部をつなげる役割を果たせるよう努めていく必要あり
- コロナ禍で集いの場が活動休止を余儀なくされる中、啓発機会を捉え、啓発活動 計26回、啓発人数 計257名への啓発が行えた
- 一宮地区のマンションについては、マンション住民と当センターとの話し合いの中で、マンション内に住民自ら高齢者相談窓口の設置の必

要性を認識された上で、設置を行うとともに包括との情報共有への住民同意も得、連携を図ることができた。現在も、いきいき百歳体操会場開設に向け継続支援を行っている

薊野地区のマンションについては、アンケート調査を実施し、マンションの課題把握が行え、次につなげるべく、マンション管理会社や理事との顔の見える関係づくりも行えた

- 地域のケアマネジャーへの後方支援329件、多職種連携に向けた地域ケア会議定例会4回、随時開催2回をコロナ禍で制限されるなか実施した

地域包括支援センターへの相談内容は、幅広いことから、多岐に渡る研修への参加を計118回行い知識と技術の向上に努めた

### ③今後の課題

- コロナ禍により災害訓練が行えておらず、大規模災害のBCPに沿った訓練を行いたい
- 地域ケア会議に住民の方の参加をいただき、浮彫になった集いの場の偏り、少なさについて、住民会議でも住民から問題提起されたことから、今後は徒歩で行ける身近な集いの場づくりのため、コロナ禍で分断された社会とのつながりを取り戻すため、ともに会場・人の開拓を行うなどの積極的支援を行いたい

(文責：管理者 小松 めぐみ)

# 医療安全(感染)管理部門



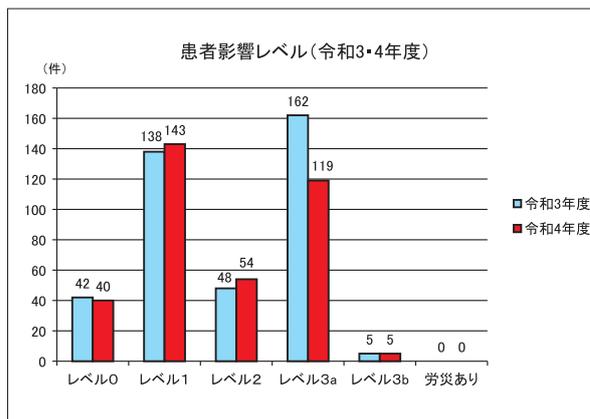
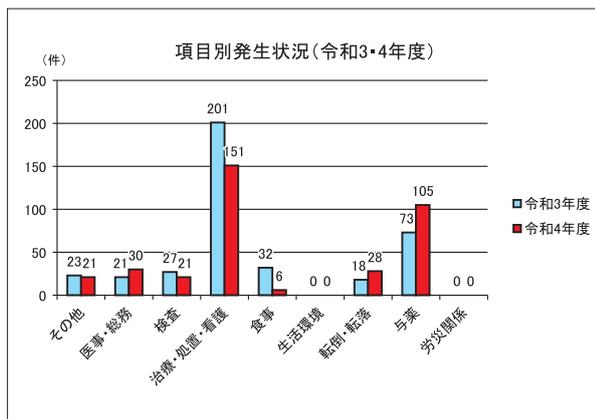
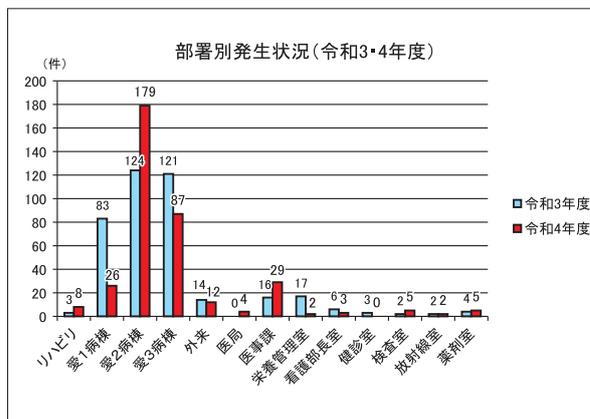
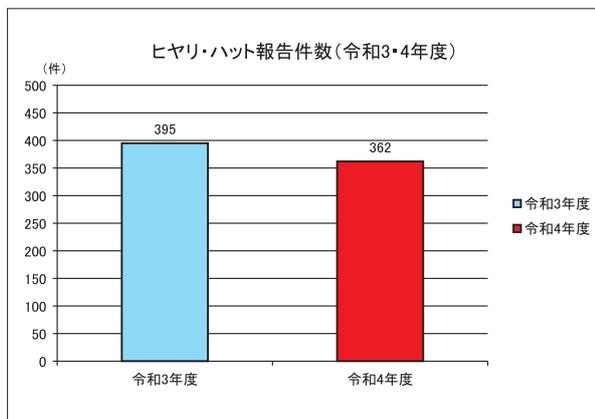
## 医療安全対策室／医療安全管理委員会

### ①2022(令和4)年度 目的・目標

- 安全な薬剤使用により事故防止を図る
  - 医療安全管理部と薬剤師による院内巡回でマニュアル遵守状況の確認と手順の見直しを行う。
- 研修計画の立案
  - 新型コロナ感染対策を行いながら、研修参加率を高めるための工夫評価ができる。
  - 薬剤に関するヒヤリハットを減少させる。
  - ヒヤリハットの報告促進
- 医療安全地域連携
  - 施設間で意見交換、および訪問評価を受け、医療安全対策推進と質の向上を図る。
  - 施設間の情報共有を図り、医療事故防止の創意工夫を学ぶ。
- 医療安全院内巡回
  - 定期的な院内巡回により、現場のリスク状況、および5S状況の確認を行い、患者・職員の安全を確保するための改善につなげる。

### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
  - 医療安全管理委員会開催：毎月 第4火曜日
  - 研修会の開催
    - 「医療安全管理指針」「ヒューマンエラーについて」  
令和4年8月1日～9月30日 参加者：録音スライド視聴279名(参加率96.9%)
    - 「医薬品の安全管理に関する研修」「医薬品による副作用等が発生した場合の対応」  
令和5年2月20日～3月11日 参加者：録音スライド視聴253名(参加率92.3%)
  - 医療安全対策地域連携
    - 医療安全地域連携加算Ⅰ・Ⅱ施設交流会  
6月：オンライン会議 11月：書面会議
  - 院内巡回：①毎月 第1月曜日(フロアごとに実施し現場へフィードバックを行う)  
②11月 マニュアル遵守確認の巡回
  - 医療安全管理マニュアル、およびその他マニュアルの見直しと作成



## 2. 目標に対する達成状況

令和4年度のヒヤリハット報告件数は362件と前年度の395件より減少した。これは前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染の流行（第7波、第8波）が影響し病院全体の入院患者数が減少していることが関係している。項目別としては治療・処置・看護ケアに関する報告件数が151件と一番多く、次いで与薬に関する報告件数が105件と前年度の73件から増えている。

与薬に関しては、持参薬から院内処方への変更や継続処方から定期処方へ切り替えの際、システムの重複薬剤が発生し、与薬前に気づかず重複投与してしまう事案が定期的に報告された。診療部、薬剤部と一緒にリスクマネージャー委員会で連携し対策を検討している。

医療安全研修は新型コロナウイルス感染防止対策

のため、録画視聴形式で2回開催した。各部署自部署で視聴できるため、参加率は2回ともに90%以上であった。

医療安全対策地域連携では、6月に第1回交流会をオンラインで開催し、各施設で情報共有が行えた。施設訪問評価は感染対策のため中止となり、自施設評価を加算1施設に提出した。

医療安全院内巡回は、月1回の巡回を継続し、環境面の確認を行い、必要箇所は改善することができた。11月に医療安全対策室と薬剤部で病棟の与薬に関するマニュアル遵守確認の巡回を実施し、マニュアルの見直しが行えた。今後も定期的な巡回や研修会の開催、関連部署との連携を取り、安全文化の醸成を図っていく。

（文責：医療安全管理者 中平 好昭）



## 感染対策室/院内感染防止対策委員会

### 1 2022（令和4）年度 目的・目標

1. 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
2. ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制をつくる。

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
  - 1) 委員会の開催（ICC：院内感染対策委員会、ICT：感染対策チーム、看護部感染委員会）
  - 2) 研修会の開催
    - ①4月 感染対策指針
    - ②7月 新型コロナウイルス感染症 標準予防策
    - ③12月 新型コロナウイルス感染症 家庭内感染予防策
  - 3) 手指衛生の遵守率向上のための取り組み
  - 4) 感染報告（毎月）指定抗菌剤使用届け報告（毎月）週間細菌検査検出状況（週報）
  - 5) ICT活動（手順書作成、院内環境ラウンド）
  - 6) 職業感染予防対策（新型コロナウイルス・インフルエンザ・B型肝炎ワクチン接種）
  - 7) 新型コロナウイルス感染症対応
  - 8) 感染防止対策加算施設との合同カンファレンスに参加（年4回）

## 2. 目標に対する達成状況

令和4年度は医療安全（感染）対策部門を立ち上

げ、その中に感染対策室を置いた。感染対策向上加算3を算定。加算1施設の細木病院他5施設と合同カンファレンス・施設間訪問を通して感染対策に関する情報共有を行い、院内の感染対策強化に努めることができた。今後も、助言をいただきながら感染対策に取り組んでいく。

研修会ではZOOMの録画機能を使って録画した研修動画を公開した。新入職者に対しては集合研修を行い、手指衛生・PPE着脱の実技研修を行った。動画研修においてはいつでも視聴できるというメリットは大きく、各部署の研修参加率が90%以上となった。今後も感染状況に応じて集合と録画視聴の双方の実施で研修を開催していく。

今年度も新型コロナウイルス感染症対応に追われる1年であった。発熱外来の対応や入院時のトリアージ、患者発生時の対応チャート作成やPPE着脱訓練などを行い、第7波、第8波ともにクラスターを起こすことなく、感染者数を最小に抑えることができた。長く面会制限を行っていたが、8月からはオンライン面会をスタートさせ、3月からは対面での面会を再開させることができた。まだまだ制限もあり患者さんやご家族にご不便をおかけしているが、長期的な対応を考え今後の取り組みを考えていきたい。

（文責：感染防止対策委員会幹事 濱名 郁里）

## 老人保健施設あうん高知

### 概要

#### ①概要

施設長：細木 秀美

副施設長：小松 雅理

#### ②活動内容・目標に対する達成状況

入所・通所リハビリ共に、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染対策に注力しつつ運営した。

入所では、8月に入所者4名がコロナ陽性で施設内療養となったが、幸い感染拡大することなく封じ込めできた。入所者数は看取り対応入所者の増加により死亡退所が増え、なかなか90%以上の稼働率に届かず苦労したが、年度後半、特に1月下旬からは95%前後を維持できるようになり、次年度に向けてよいスタートを切ることができた。また、令和3年にスタートさせた口腔ケアの強化について、継続することで成果を見せ始め、4月に1件誤嚥性肺炎の発生があったが、その後年度末までゼロを更新。嚥下などに課題のある方や看取りの対象者を多く抱えた中で、STや介護職員を中心に、勤務者全員での取り組み成果を評価したい。看取りや施設でのコロナ陽性者対応など、外部から依頼を受けて講師を務めることも増え、種別協団体や地域貢献として寄与することができた。さらに、次年度に向け、介護ロボット導入に関わるプロジェクト

#### 施設長 細木 秀美



チームを立ち上げ、機器の選定や評価を開始した。

通所リハビリは、前年ほどの感染対策目的での利用控えはなく、利用者の協力もありクラスター発生もなかった。デイサービスなどへの「卒業」事例も数名実績を残すことができ、認知症対応の集中リハでも一定の成果を出すことができた。

令和5年5月のコロナ5類移行への対応準備およびBCPの見直しと訓練などについて年度をまたぎ検討を継続する。

#### ③今後の課題

1. コロナ5類移行後の感染対策およびBCP見直し
2. 介護ロボットなどの導入を推進し、入所者および職員にとっての環境改善を図る
3. 令和6年の介護報酬改定（医療、障害を含めたトリプル改定）に向けた対応

（文責：副施設長 小松 雅理）



## あうん高知入所



#### ①概要

病棟形態：介護老人保健施設 長期入所、短期入所

病床数：75床

所属長名：フロアマネージャー 嶋崎 由季

構成職員：看護師 6名

准看護師 5名

介護福祉士 18名

看護助手 5名

介護助手 2名

介護支援専門員 3名

支援相談員 1名

理学療法士 2名

作業療法士	2名
言語聴覚士	1名
合計人数	45名

## ②2022（令和4）年度 目的・目標

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力とサービスの質を向上させる
3. 介護報酬改定内容を理解して改定する

## ③目標に対する取り組み

1. 平均ベッド稼働率は87.5%。感染対策のための居室隔離や、施設内でのコロナ対応による入退所の見合わせ、急な入院・施設入所のための退所、死亡退所が過去最多の18名（うち、看取りケア対象者が12名）となったことなどが影響した。  
在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値：90）のポイントによって決まる老健の分類（基本型・加算型・強化型・超強化型・その他型）はおおむね在宅強化型の数値（56～73）を維持した。
2. 新型コロナウイルス感染症対策は、院内の基準や市中の感染状況を考慮しながらルールに沿った面会対応、利用者の状態に応じた環境調整や過ごし方の工夫などに取り組んだ。  
令和4年8月に4階フロアで利用者のコロナ陽性が判明。4人部屋のうち3名、2人部屋のうち1名が陽性となり、施設内で治療した。前年度に3階フロアで発生したコロナ対応の経験を活かしたこともあったが、フロアの構造や利用者の状態が異なったため、対応方法の変更が必要な場面があった。約1カ月間にわたって施設内で陽性者4名と濃厚接触者2名の対応を行ったが、他居室や

別フロアへの感染拡大は防ぐことができた。

利用者ケアについては、受け持ち職員が中心になってカンファレンスを開催、情報共有やケア内容の見直し、看取り対象者のケア内容の検討などを行った。

また、CSセット契約者が半数を超えたこと、介護助手の業務範囲拡大により、看護職員・介護職員が利用者のケアやりハビりに集中できる時間が増えた。

職員指導として、部署内の感染委員による手指消毒やPPE着脱の手技確認、吐物処理の演習、居室隔離の手順確認、リスク委員による配薬手順確認、環境ラウンド、褥瘡委員によるポジショニング確認、サービス向上委員による身だしなみチェックなどを実施した。

新入職員の育成は、1年間は担当フロアを固定し利用者ケアや業務の習得ができるように支援した。

3. BCPについては、有事におけるケアや業務内容の再検討、感染症発生時の初動対応の机上訓練を実施した。関係機関への連絡や物品準備、ゾーニングや担当職員の決定、職種ごとに担う役割や優先順位について考えることができた。

科学的介護情報システム（LIFE）については、必要な情報入力の一部を受け持ち職員にシフトした。情報入力の精度が向上し、入力不備によるエラーが減少した。フィードバックデータを確認し、全国と当施設の現状について把握した。

## ④次年度の課題

1. ベッド稼働率95%（1日あたり71名）以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. サービスの質とチーム力を向上させる
3. 老健の事業継続のための取り組み

## 2022(令和4)年度【部署名：あうん高知入所】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	介護保険施設サービスに関する研修 (看護・介護倫理、接遇を入所者、家族の視点で考える)	大谷支援相談員
5月		
6月	①事故発生予防(危険予測)に関する研修 ②事故発生等緊急時の対応について(誤嚥、骨折など)	植田介護福祉士、藤田准看護師
7月	①感染症(食中毒)予防およびまん延防止について ②食事介助のポイント	夷岡介護福祉士、木下看護助手
8月		
9月	①介護保険施設サービスに関する研修 ②認知症および認知症ケアに関する研修	長瀬介護福祉士、窪内介護福祉士
10月	施設職員が行うべき記録について (ケアプランに沿ったケース記録入力、サマリーに反映させるべき内容とは)	山本看護師
11月	新型コロナウイルス感染症 机上訓練	感染委員会
12月		
1月	感染症(感染性胃腸炎、インフルエンザなど)に関する研修	山下介護福祉士、笹岡看護助手
2月	①ポジショニング、シーティング、OHSケールについて②プライバシー保護③身体拘束廃止に関する研修	高橋看護師、高橋介護福祉士、森岡ケアマネ
3月	非常災害時の対応に関する研修	竹口介護主任

(文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季)



## あうん高知 通所リハビリテーション「デイケア・ファイト」



### 1 概要

病棟形態：あうん高知 通所リハビリテーション

定員：24名

所属長名：三浦 恵子

構成職員：	看護師	1名
	准看護師	1名
	介護福祉士	4名
	看護助手	3名
	理学療法士	2名
	言語聴覚士	1名
	運転手	1名
	合計人数	13名

### 2 2022（令和4）年度 目的・目標

1. 1日の利用予定者数を22名で調整し、平均利用者数17名を維持することができる
2. 多職種間での意見を出し合い各利用者の状態に応じたリハビリを実施することで、機能向上と維持を目指す
3. 中重度の利用者割合も多いため、体調の変動に注意し早期対応や受診を進め病状の悪化を予防することができる
4. 利用者層に応じた座席やタイムスケジュールの変更を柔軟に行い、よりよいサービスの提供を行う

### 3 目標に対する取り組み

1. お試し利用や新規利用相談の対応は、職員が限定されることなく対応を行えるよう取り組み、新規利用につなげることができた。短時間での利用相談の対応も継続しており、新たに法人内のデイサービス（いろは）と連携を図り、利用者の機能を維持・回復させる取り組みも実施できている。  
・利用者数や利用率を上げることはできたが、目標

の達成は11月のみで平均利用者数を維持することができなかった。

2. 多職種間でのリハビリ会議やカンファレンス、ミーティングを通して個々の利用者に必要なリハビリの提供と評価・実施を継続して行うことができている。  
令和4年度は卒業生を2名送り出すことができおり、令和5年度より移行支援加算（デイケアよりデイサービスや地域の活動への移行など）を算定することができる。
3. 体調の変動に注意し早期発見・対応をすることで病状の悪化予防に努めた結果、入院したケースもあった。対応としては迅速に行い家族、ケアマネージャーへの情報提供も継続できたことで、情報共有や家族などどのように動けばいいのか助言することができた。
4. 歩行器や車イス使用に応じた送迎の変更を行い、サービス提供時間に応じた送迎の調整を行った。曜日によって、利用者のレベルも違うため座席の配置や入浴の順番などを臨機応変に変更し対応することができている。  
業務都合でのタイムスケジュールにならないように配慮し、利用者と一緒に過ごす時間を確保し、リハビリ以外での余暇時間の充実化を図ることができた。

### 4 次年度の課題

1. 基本的な感染予防を継続する。中重度の利用者割合が多いことも考慮し体調不良時の早期発見と対応を行い病状の悪化を予防することができる（1日利用平均17名を維持できるように曜日ごとの利用者数を調整する）
2. 職員の人材育成を行う（介護保険制度や各加算の

算定要件の理解。ハウレンソウの徹底と現場での意見をとりまとめ統一した提案を行い、実行、修正することできるリーダーを育成する)

3. 多職種間で意見を出し合い、利用者のその時々

応じたリハビリを実施し機能維持・回復を図る

4. BCP策定(大規模災害・感染症)と自部署や他部署、地域との訓練が実施できる

2022(令和4)年度【部署名：あうん高知通所リハビリテーション「デイケア・ファイト」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	リハビリについて知ろう!～理学療法とは…～	津野理学療法士
5月	栄養アセスメントとは	三浦介護主任
6月	倫理・法令遵守について	大久保介護福祉士
7月	感染症・食中毒の予防およびまん延の防止	山崎看護師
8月	プライバシー保護について	吉川看護助手
9月	感染予防(インフルエンザ・ノロ対応・標準予防策)	山崎看護師
10月	認知症及び認知症ケアについて	三浦介護主任
11月	身体拘束・虐待防止について	松岡看護助手
12月	非常災害時の対応について	山崎看護師
1月	事故発生などの緊急対応(交通事故・不審死)	田中介護福祉士
2月	接遇について	前田看護助手
3月	緊急時の対応に関する研修(福祉用具含む)	頼田理学療法士

(文責：介護主任 三浦 恵子)

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

## 委員会

定例会	経営会議
	運営会議
	医局会
全体	医療安全管理委員会
	安全衛生委員会
	リスクマネージャー委員会
	院内感染防止対策委員会
	医療ガス安全管理委員会
	防災委員会
	倫理と権利の検討委員会
	診療記録開示検討委員会
	薬事委員会

全体	褥瘡対策委員会
	栄養委員会
	診療情報管理委員会
	広報委員会
	サービス向上検討委員会
	未収金の会
	臨床検査適正化検討委員会
	輸血療法委員会
	入院相談・ベッド調整会
	院内教育委員会
医療放射線安全管理委員会	



## 褥瘡対策委員会

### 1 2022（令和4）年度 目的・目標

- 褥瘡回診・定例会の実施  
DESIGN-Rを用いた評価・および検討を行い、褥瘡発生率1%以内・治癒率75%以上にする
- 予防活動

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
  - 褥瘡回診 1回/月（第4火曜日）
  - 委員会開催 褥瘡回診翌日
  - 研修会・勉強会開催
- 目標に対する達成状況  
褥瘡回診後、翌日の定例会で画像・DESIGN-Rを用いて経過報告、評価・検討を実施。

感染対策で回診・委員会を開催できなかった月もある。また、医師の異動に伴う調整で1・2月は休会とし、必要事項の伝達を行った。

褥瘡の院内発生者は17名、発生率0.7%であり目標の1%以内はクリアできている。昨年度0.7%、一昨年0.8%であり、ほぼ同数で経過している。

Ⅱ度以上の発生部位は、腸骨部（左右）・仙骨部7件・踵部（左右）3件・坐骨2件・尾骨2件・背部2件・右耳介1件・右肩1件・右太転子1件（同一人で、別部位に発生したケースあり）。状態悪化や老衰で死亡退院された方が7名と多かった。

Ⅰ度の報告件数が10件であるが、いずれも早期対応し改善されている。

### ■ 2022（令和4）年度 実績

注）前年度からの持ち越し3名。

		令和4年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年1月	2月	3月	総計
リスク患者数(名)		151	154	156	166	158	150	154	158	158	152	160	155	1,872
褥瘡保有者数(名)		5	7	6	5	4	5	5	2	2	1	2	3	47
発生者数	総数	2	1	0	1	1	0	2	1	1	2	1	2	14
	率	1.3%	0.6%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	1.2%	0.6%	0.6%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%
	持ち込み	0	4	1	0	0	1	1	1	2	0	0	1	11
治癒者	総数	3	1	0	2	0	0	1	1	2	2	1	0	11
	率	60.0%	14.2%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	50.0%	100.0%	66.6%	50.0%	0.0%	33.4%

DPR	発生数	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	治癒数	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	5
	保有率	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- 褥瘡でカウントしていた患者が血管性潰瘍に病名変更した場合は、発生時にさかのぼり発生者数・保有者数から除外する
- 治癒者：月率＝その月の保有者数に対する治癒率 年率＝その年度の発生者・持ち込み者数に対する治癒率

持ち込み褥瘡は15件。褥瘡部位は、踵部（左右・両）5件・仙骨部3件・腸骨部（両・左右）2件・大転子部（両・右）2件・背部2件・左耳介1件・右足部辺縁1件（同一人で、別部位に発生したケースあり）。治療が長期間となっている方が1名おられるが、継続してケアの実施と経過を確認していく。

MDRPUは9件。令和4年度は4件と昨年に引き続き減少している。

今年度は点滴ラインが2件と、尿道留置カテーテル1件、酸素マスクのゴムによるものが1件。

いずれも早期に発見・治療につなげており、全体的によくケアをして観察できていると考える。

### 3. 予防活動

- ①クッションの適正使用・管理
- ②マニュアル・ルーチン処置の指導と周知
- ③勉強会の開催 新職員への指導強化  
リハビリがポジショニングの勉強会を提案してくれたが、感染対策で実施できず。次年度は開催で

きるようにする。各個人が、ポジショニングについて再度意識ができるように、各部署の委員が中心となり啓蒙活動と実践を行っていく。

看護部では今年度も各部署ラウンドは、感染対策のこともあり実施せず。

MDRPUについての予防策がとれているのかは各現場の委員が確認している。

統一した予防方法の実施と指導ができるように今後も指導・啓蒙活動を行っていく。

また、MDRPU予防のマニュアルや褥瘡対策のマニュアルも修正ができなかったため、次年度も継続課題とする。スキンテアについての手順が一部変更となったところは手順の修正を行った。

オンラインセミナーや自己研鑽のできる部分があるので、各委員は積極的にweb研修などに参加し、得た知識の情報共有をし、全体の底上げにつなげていく。

（文責：副委員長 大石 陵子）



## 栄養委員会

### 1 2022（令和4）年度 目的・目標

1. 入院患者および入所者の提供栄養量に関わる事項について検討する
2. 入院患者および入所者の食事提供について検討する

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
  - ・行事食の検討と計画
  - ・朝食の飲み物について検討
  - ・嚥下調整食区分の早見表の作成
  - ・栄養補助食品について検討
  - ・衛生管理について
  - ・食事提供について
2. 目標に対する達成状況
  1. 便秘で腸内の細菌のバランスが崩れると、脂質や糖の分解や吸収にも影響を及ぼし、多くの病

気の原因や悪化につながる。このような患者に対して腸内の環境を改善させるために、腸内の善玉菌の餌となるラクチュロースが配合された飲み物を検討・採用し便秘の改善を行った。

2. 食欲の低下や、噛む力が弱くなるなどの口腔機能の低下により食事がたべにくくなるといった理由から徐々に食事が減り、身体を動かすために必要なエネルギーや筋肉、皮膚、内臓など体をつくるたんぱく質などの栄養が不足している状態の患者に対して必要な栄養量を十分に摂取できるよう以前から栄養補助食品を提供している。栄養補助食品は基本的に甘い味のものが多く、患者によっては甘い物を好まない方も少なくない。このような患者に対して甘くない栄養補助食品の検討・採用を行い、摂取量の増加につなげることができた。

（文責：委員長 石山 由香）



## 薬事委員会

### 1 2022（令和4）年度 目的・目標

医薬品の適正化、並びに円滑化を図る。

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

令和4年度もコロナ禍であったことから新規採用剤数は3剤で、限定採用剤数は9剤であった。このことは、入院または退院の患者さまの数が減少し医薬品採

用申請書の提出にも影響したと考える。また令和4年度の薬事委員会の開催が前年より少なく3回であった。後発医薬品の使用率は平成4年において77.7%にとどまった。令和3年度に引き続き後発医薬品の出荷停止や出荷調整の影響が続いている。今後は注射薬や外用薬についても後発医薬品に変更していく必要がある。



#### 4. ハラスメントについて

本年度は、セクシャルハラスメントのアンケートを10月に実施したが、研修会を行えなかったため、次年度は何らかの形で実施したいと考えている。

職員一人ひとりが、ハラスメントに対する知識を深め、加害者・被害者にならないよう、加害者・被害者

を作らないようにしていきたい。

そうすることにより、部署内のチームワークも高まり今まで以上に良い職場環境で、質の高い医療が提供できると思われる。

(文責：委員長 植田 宏平)



## 防災委員会

### 1 2022 (令和4) 年度 目的・目標

1. 消防訓練、風水害訓練の実施
2. 令和5年度よりBCP訓練を行えるようにBCPの修正をする。

2. BCPの見直し・修正・訓練スケジュールの作成が終了し、来年度に向けての準備が整った。令和5年2月の運営会議で各部署に冊子で配布することを報告し配布した。

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 消防訓練、風水害訓練は昨年と同じ時期に行った。

(文責：防災委員 鳴瀧 有人)



## サービス向上委員会

当委員会は、患者さまから寄せられる苦情のほか、種々の病院サービス向上のための意見・提言を聴取し、患者さまに質の高い医療サービスを提供すること。患者さまの満足度とケアの質を向上させることに努めます。

また職員からも職場環境、患者サービス改善案などを意図的に収集し、働きやすい職場づくりに貢献することを目的に発足しました。

サービス向上のための各種アンケートや満足度調査を行い、患者さまや職員が抱える問題点を集計し、検討を行い、より良い医療サービスを提供と良好な職場環境の創造を目指します。

令和4年度的主要な取り組みは以下になります。

### 1 令和4年度的主要な取り組み

- ①ご意見箱の回収、対応、回答
- ②相談受付簿の検討、対応
- ③職場環境の改善、患者サービスの改善
- ④令和4年度退院アンケートの集計、報告
- ⑤令和4年度外来待ち時間調査の実施、集計、報告
- ⑥新型コロナウイルス感染症に対応したサービスの変更や中止の検討

(文責：事務部長 植田 宏平)



## 広報委員会

### 1 2022 (令和4) 年度 目的・目標

1. ホームページリニューアル
2. せんだん便りの発刊

のリニューアル、せんだん便りの内容を決定する委員会とした。

令和4年11月1日ホームページをリニューアルし、スマートフォン対応各部署での内容更新ができるシステムとなった。

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

令和4年4月より広報委員会を再開しホームページ

### ■ 広報委員会 リニューアル後のアクセス数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和3年度	1,347	1,517	1,537	3,093*	1,593	1,511	1,546	1,457	1,367	6,818*	2,350*	1,781
令和4年度	1,828	1,774	1,590	1,852	2,758	1,861	1,729	403	2,137	2,097	1,892	1,946

※クラスター発生によるアクセス数増加

リニューアル後の設定が機能していなかったため12月～の数字が正確なアクセス数

(文責：広報委員 鳴瀧 有人)

# 三愛病院 2022(令和4)年度 院内研究発表会

開催月：2023年2月

演題・内容	発表者○
一般演題	
1) 三愛病院における医師事務作業補助者の取り組み	看護部長室 ○入交 菜央
2) 診療情報管理室の再始動と今後の課題について	医事課・診療情報管理室 ○山本 淑恵
3) 6年間の経管栄養から経口摂取へ移行した症例	リハビリテーション課 ○貞光 梨沙
4) 新型コロナウイルス感染症クラスター終息後の取り組み	介護医療院さんあい ○戸田 早弥佳
5) コロナウイルス陽性者対応の経験から学んだこと	あうん高知入所 ○北村 啓浩
6) デイケアの現状と利用者増員に向けての取り組み	あうん高知通所リハビリテーション ○津野 奈大
7) “住み慣れた家で暮らす”を支えるとは	居宅介護支援事業所「一宮」 ○田所 良康
プレゼン発表	
1) 1年間の振り返り ～看取りの場面での看護師の役割について～	愛2病棟 ○大石 知世
2) 社会人としての始まり ～私の支えとなったもの～	愛2病棟 ○白川 志保
3) 裸の私 ～知らなかった自分に出会えて～	愛2病棟 ○高橋 真理
総評、奨励賞贈呈	院長 中村 寿宏

第27回院内研究会は令和5年2月に感染対策のため、Zoomの録画機能を用いて発表記録とすることで視聴機会を持つこととなった。



細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

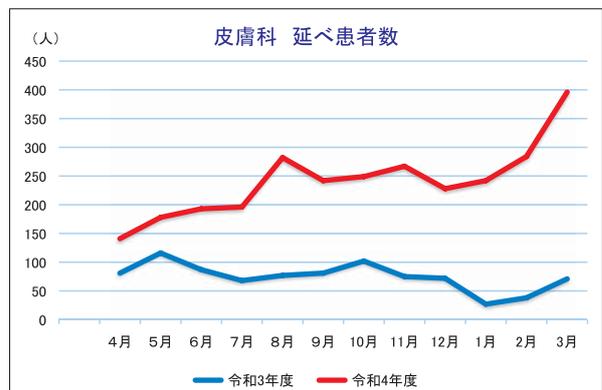
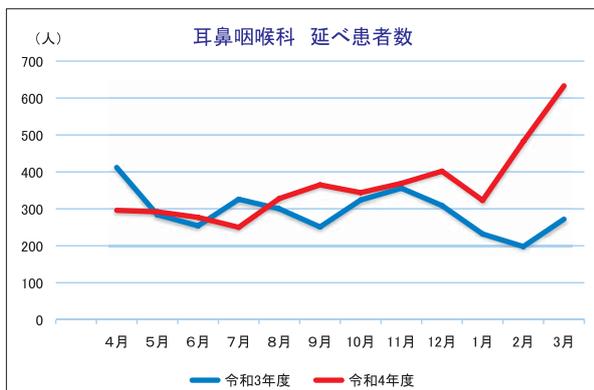
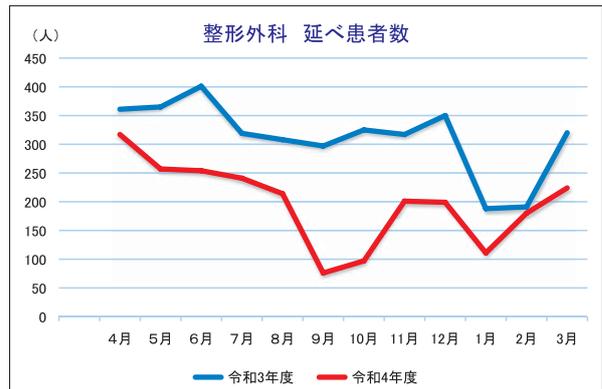
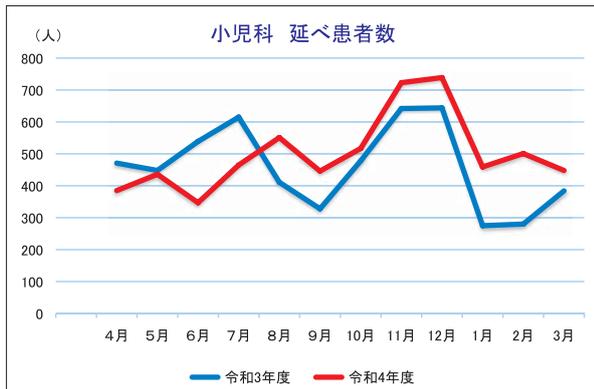
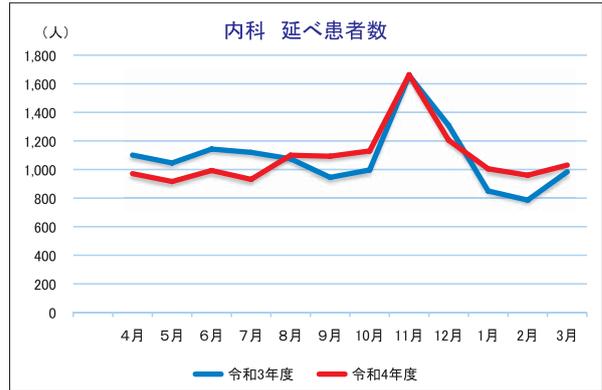
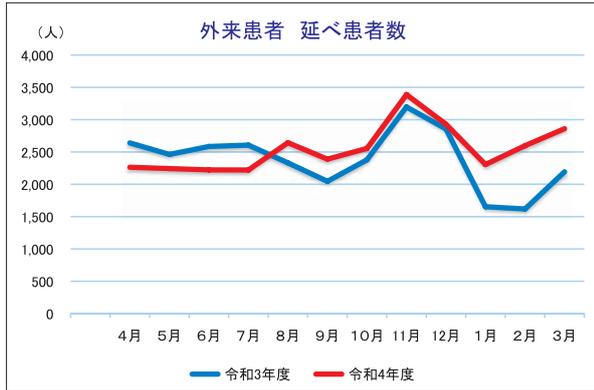
福寿園

積善会

## 診療部

■ 2022(令和4)年度 外来患者数統計

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	1,808	1,786	1,830	1,839	2,158	1,934	2,113	2,811	2,452	1,921	2,101	2,197	24,950
延べ患者数(人)	2,264	2,243	2,223	2,221	2,644	2,389	2,555	3,388	2,929	2,306	2,597	2,860	30,619
平均患者数(人)	90.6	97.5	85.5	88.8	101.7	99.5	102.2	141.2	112.7	100.3	118.0	110.0	104.0
新患者数(人)	102	87	76	137	176	169	136	170	229	148	101	98	1,632



細木病院

三愛病院  
あうん高知

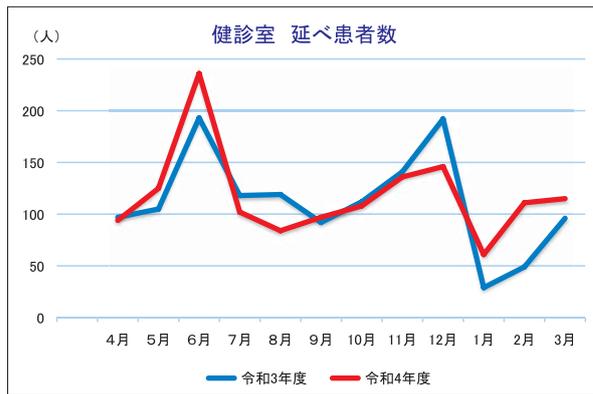
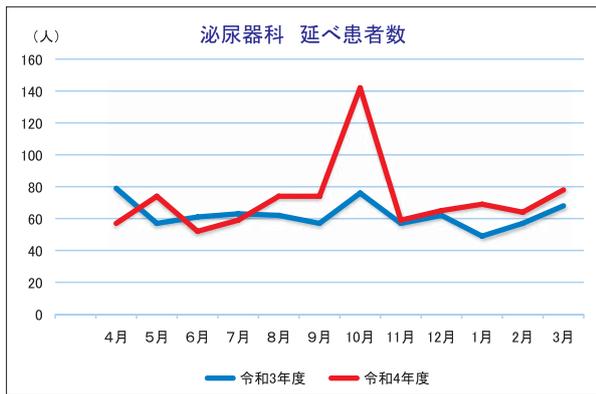
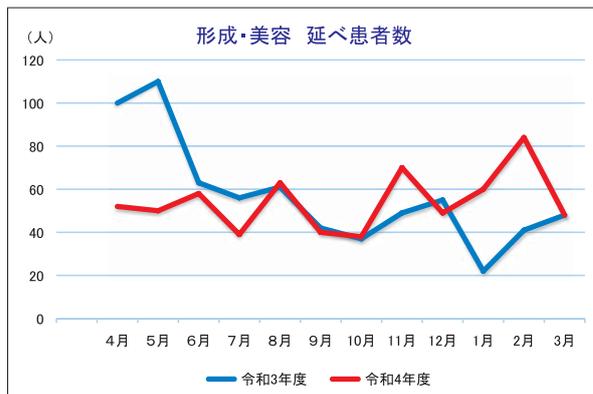
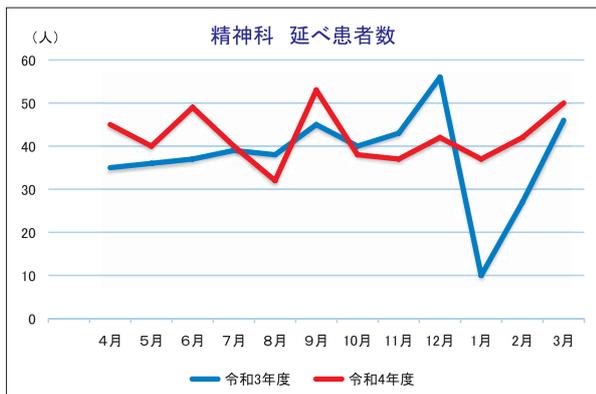
日高クリニック

本部

アドレス・高知

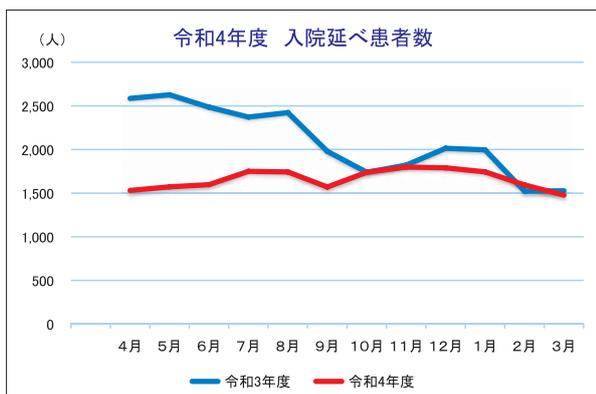
福寿園

積善会



■ 2022(令和4)年度 入院患者数統計

	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)		52.1	51.7	54.3	57.6	57.4	53.4	57.2	61.2	58.9	57.4	56.1	48.6	55.5
延べ患者数(人)		1,531	1,572	1,597	1,750	1,743	1,570	1,739	1,799	1,790	1,744	1,594	1,477	1,659
平均患者数(人)		51.0	50.7	53.2	56.5	56.2	52.3	56.1	60.0	57.7	56.3	55.0	47.6	54.4



# 看護部

## 2022(令和4)年度 病棟別業務実績

### 愛1病棟（障害者施設等）業務実績

※令和3年9月より新型コロナウイルス感染症患者受け入れ重点医療機関となり、愛1病棟8床が確保病床となった

病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (38床)	稼働率(%)	3.0%	11.7%	9.6%	14.8%	20.0%	15.4%	13.3%	18.7%	17.7%	14.9%	15.2%	5.2%	13.3%
	延べ患者数(人)	34	138	109	174	236	175	157	213	208	175	167	61	154
	平均患者数(人)	1.1	4.5	3.6	5.6	7.6	5.8	5.1	7.1	6.7	5.6	5.8	2.0	5.0

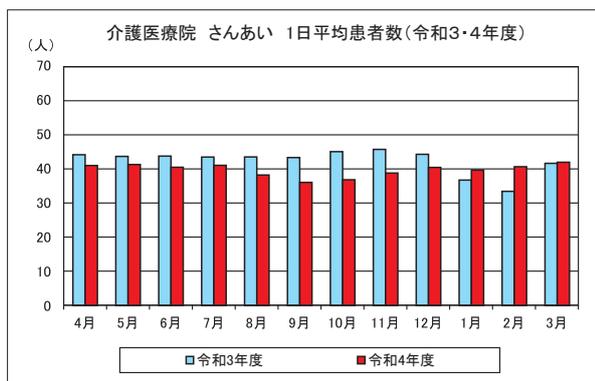
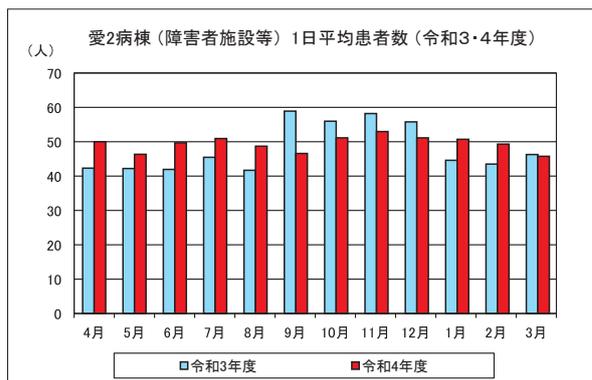
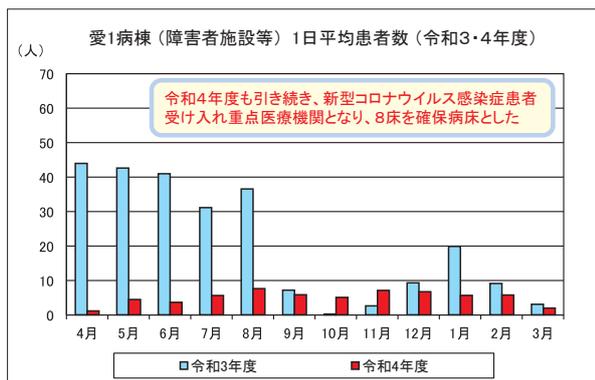
### 愛2病棟（障害者施設等）業務実績

病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (50床) 地域包括ケア 病床(10床)	稼働率(%)	83.2%	77.1%	82.7%	84.7%	81.0%	77.5%	85.1%	88.1%	85.1%	84.4%	82.0%	76.1%	82.2%
	延べ患者数(人)	1,497	1,434	1,488	1,576	1,507	1,395	1,582	1,586	1,582	1,569	1,427	1,416	1,505
	平均患者数(人)	49.9	46.3	49.6	50.8	48.6	46.5	51.0	52.9	51.0	50.6	49.2	45.7	49.3

### 介護療養院 さんあい（I型介護医療院）業務実績

病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護療養院 さんあい (48床)	稼働率(%)	85.3%	86.0%	84.3%	85.5%	79.6%	75.1%	76.7%	80.8%	84.2%	82.5%	84.6%	87.4%	82.7%
	延べ患者数(人)	1,229	1,279	1,214	1,272	1,184	1,081	1,141	1,163	1,253	1,228	1,178	1,300	1,210
	平均患者数(人)	40.97	41.26	40.47	41.03	38.19	36.03	36.81	38.77	40.42	39.61	40.62	41.94	39.7

## 病棟別1日平均患者数（前年度比）



細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 医療技術部門

## ■ 2022（令和4）年度 薬剤室業務実績

### 薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	31	25	27	21	18	29	36	27	23	36	37	28	338
外来処方箋件数(注射)	272	259	279	239	282	305	109	236	228	122	260	269	2,860
入院処方箋件数	1,216	1,048	1,100	1,226	1,445	1,108	1,184	1,209	1,403	1,147	1,074	1,202	14,362
入院処方箋件数(注射)	1,121	1,234	1,194	1,404	1,911	1,105	1,322	1,701	1,542	1,460	1,364	1,354	16,712
併設あうん高知 処方箋件数	348	328	329	384	363	406	344	321	400	357	348	452	4,380
併設あうん高知 処方箋件数(注射)	20	35	24	17	28	26	13	30	22	39	9	15	278
服薬指導件数	1	2	2	0	8	5	5	3	2	2	2	3	35
検薬件数(持参薬)	16	13	19	22	23	20	21	19	26	18	16	27	240
併設あうん高知 検薬件数	8	5	7	7	7	5	8	7	7	15	6	8	90

### 薬剤室 処方箋枚数

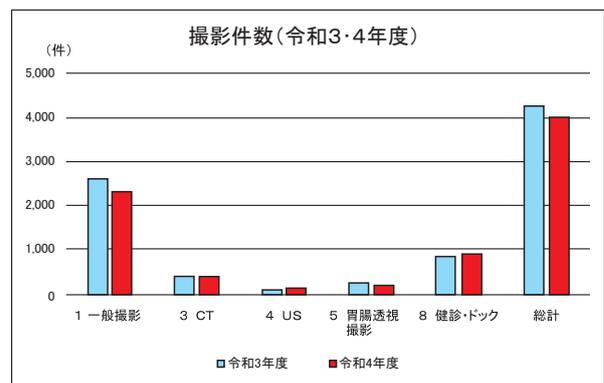
年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和3年度	158	1,976	5,771	7,369	1,440	176
令和4年度	241	1,603	5,574	8,425	1,652	230

### 薬剤室 処方件数

年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和3年度	224	3,183	17,219	13,960	4,107	229
令和4年度	338	2,860	14,362	16,712	4,380	278

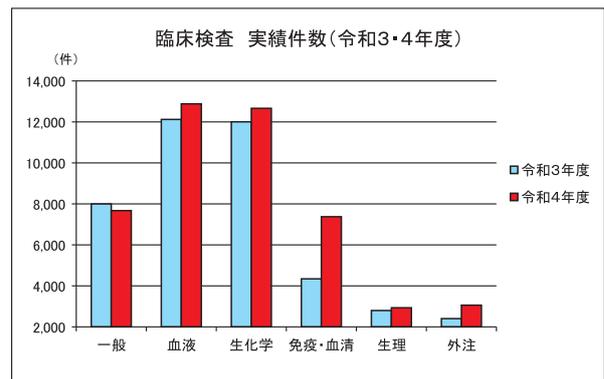
## ■ 放射線室 撮影件数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
1 一般撮影	2,652	2,357	89%
3 CT	418	414	99%
4 US	108	149	138%
5 胃腸透視撮影	268	212	79%
8 健診・ドック	873	930	107%
総計	4,319	4,062	94%



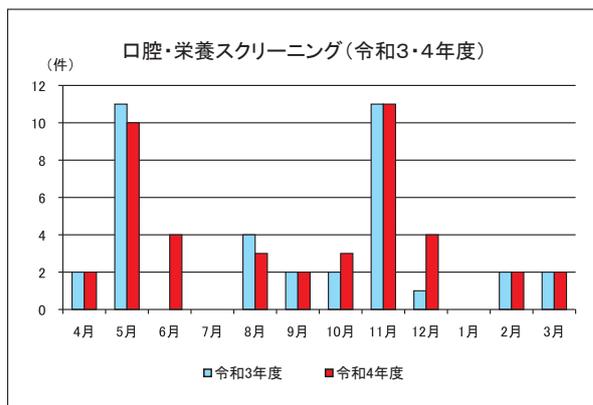
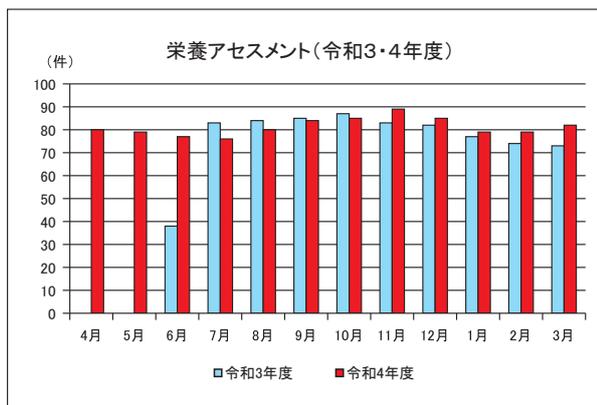
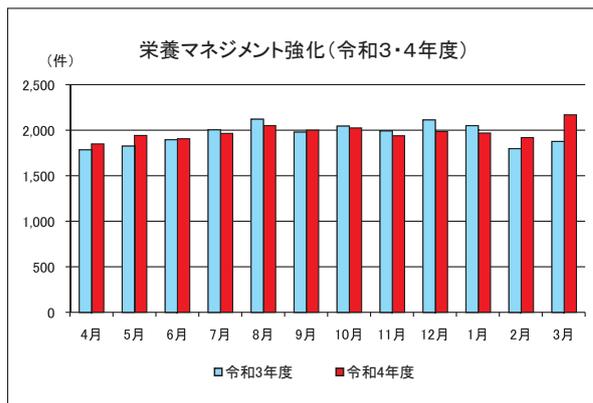
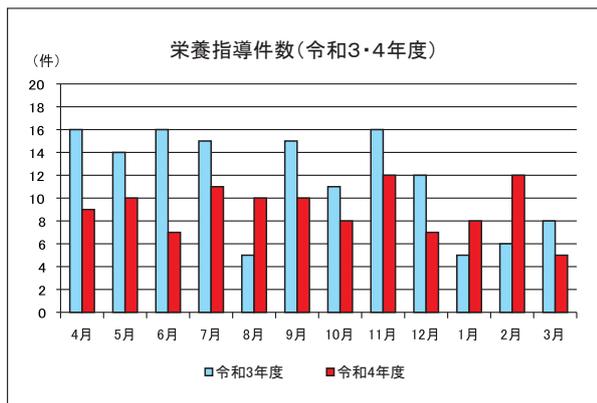
## ■ 臨床検査室 検査業務実績件数

	令和3年度	令和4年度	前年度比
一般	7,997	7,671	96%
血液	12,121	12,882	106%
生化学	12,004	12,663	105%
免疫・血清	4,343	7,374	170%
生理	2,798	2,932	105%
外注	2,403	3,059	127%



■ 栄養管理室 業務実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	令和3年度	16	14	16	15	5	15	11	16	12	5	6	8
	令和4年度	9	10	7	11	10	10	8	12	7	8	12	5
栄養マネジメント強化	令和3年度	1,789	1,830	1,900	2,009	2,126	1,984	2,050	1,997	2,118	2,055	1,802	1,881
	令和4年度	1,854	1,947	1,911	1,970	2,056	2,005	2,030	1,944	1,990	1,974	1,924	2,174
栄養アセスメント	令和3年度			38	83	84	85	87	83	82	77	74	73
	令和4年度	80	79	77	76	80	84	85	89	85	79	79	82
口腔・栄養スクリーニング	令和3年度	2	11	0	0	4	2	2	11	1	0	2	2
	令和4年度	2	10	4	0	3	2	3	11	4	0	2	2



細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

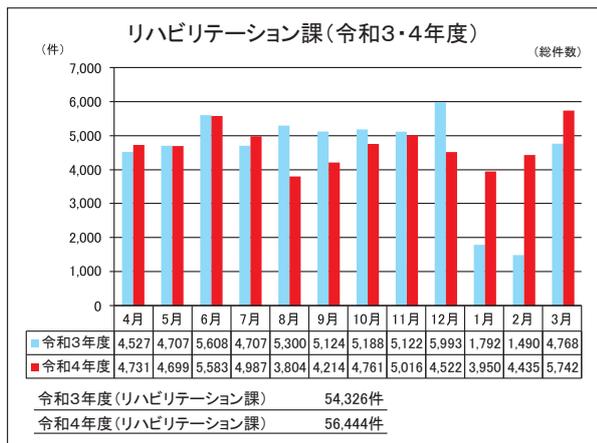
アドレス・高知

福寿園

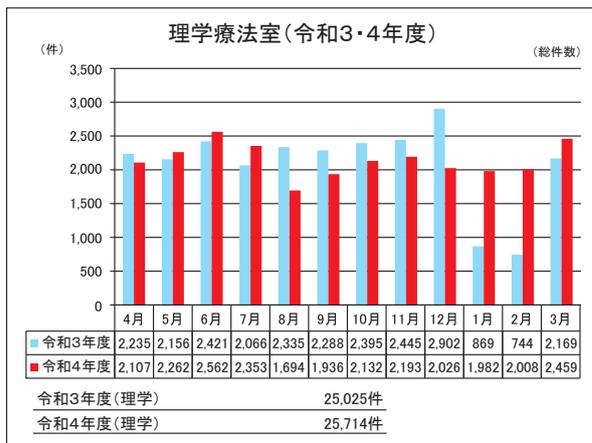
積善会

■ 2021(令和3)年度 リハビリテーション課 業務実績

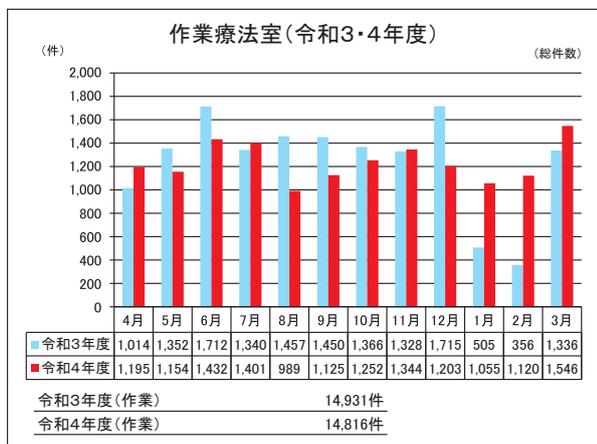
リハビリテーション課



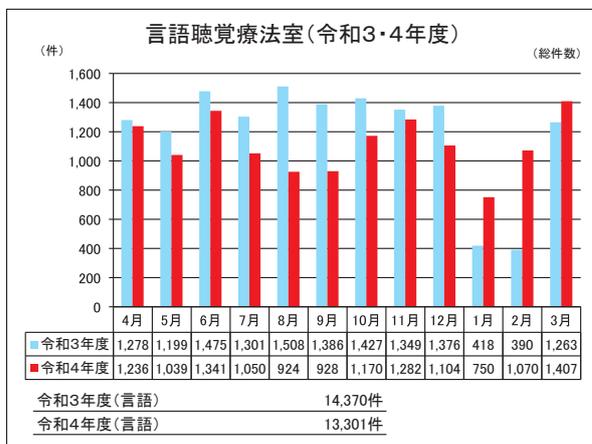
理学療法室



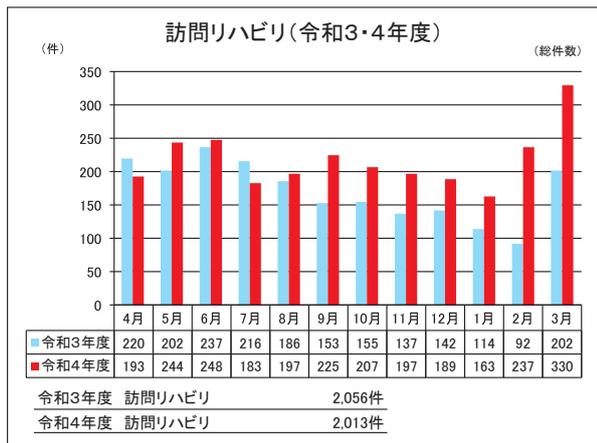
作業療法室



言語聴覚療法室



訪問リハビリテーション



細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 在宅部門

## ■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和3年度 介護保険利用者数(人)	112	113	110	112	110	111	114	110	109	106	110	109	1326	111
令和3年度 介護予防利用者数(人)	22	22	21	21	19	19	18	19	19	20	20	20	240	20
令和4年度 介護保険利用者数(人)	116	112	120	120	120	122	123	121	122	119	121	121	1437	120
令和4年度 介護予防利用者数(人)	20	20	20	22	22	22	23	22	22	21	19	19	252	21

## ■ デイサービスいろは 業務実績

サービス種類：通所介護・総合事業

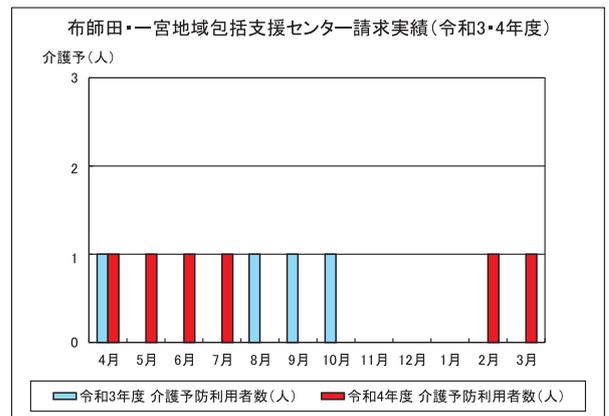
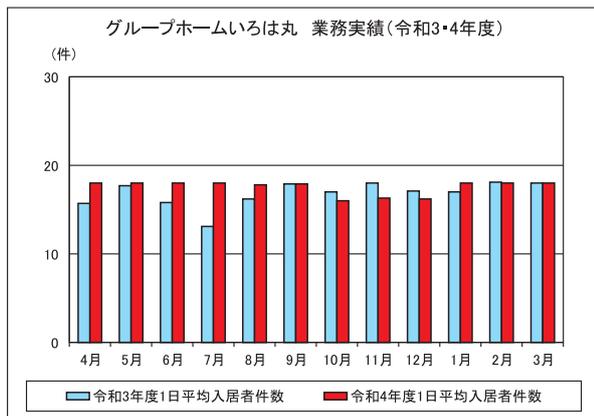
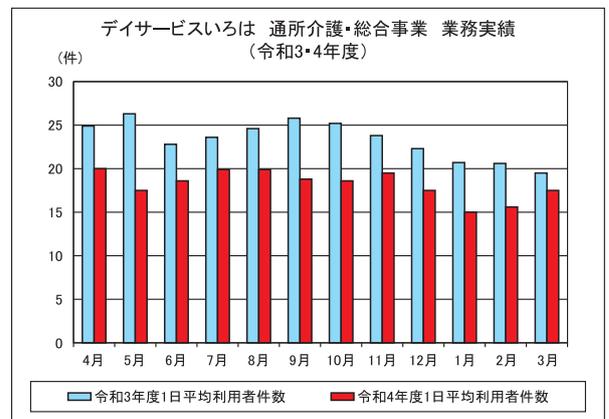
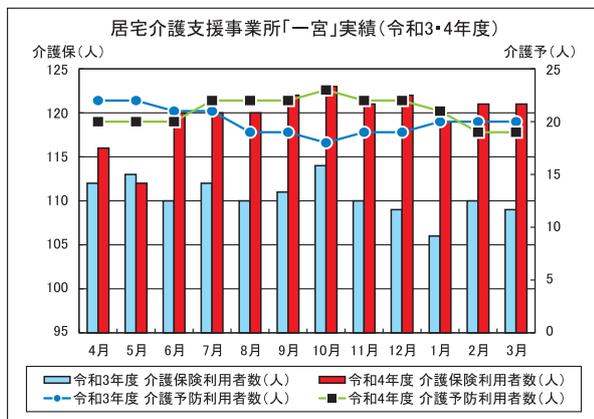
病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所介護・総合事業	稼働率(%)	66.7	58.5	61.9	66.3	66.3	62.8	62.1	64.9	58.4	49.9	52.1	58.3	60.7
	延べ人数(人)	520	456	483	517	537	471	484	506	473	374	375	472	472.3
	1日平均利用者件数(件)	20.0	17.5	18.6	19.9	19.9	18.8	18.6	19.5	17.5	15.0	15.6	17.5	18.2

## ■ グループホームいろは丸 業務実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	98.9	99.3	88.9	90.6	89.8	100.0	100.0	100.0	97.3
延べ入居者数(人)	540	558	540	558	552	536	496	489	501	558	504	558	533
1日平均入居者数(人)	18.0	18.0	18.0	18.0	17.8	17.9	16.0	16.3	16.2	18.0	18.0	18.0	17.5

## ■ 高知市布師田・一宮地域包括支援センター 請求実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和3年度 介護予防利用者数(人)	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	0
令和4年度 介護予防利用者数(人)	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	6	1



細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 老人保健施設あうん高知

## ■ あうん高知 業務実績

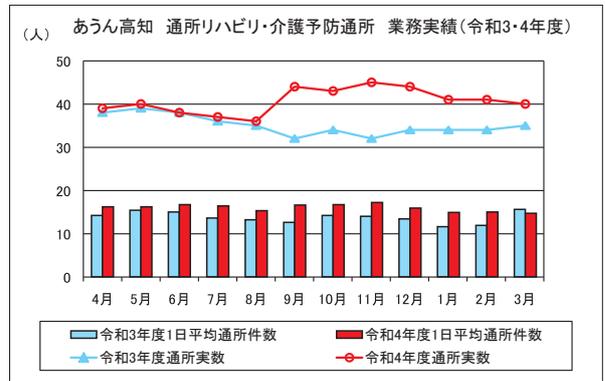
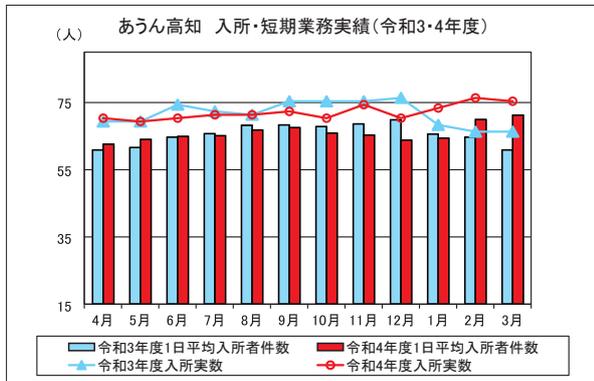
サービス種類：入所・短期

病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	83.1	85	86.2	86.4	88.6	89.6	87.5	86.6	84.7	85.4	92.8	94.5	87.5
	延べ患者数(人)	1,870	1,976	1,939	2,008	2,060	2,017	2,034	1,949	1,969	1,986	1,948	2,198	1,996
	1日平均入所者件数(件)	62.3	63.7	64.6	64.8	66.5	67.2	65.6	65.0	63.5	64.1	69.6	70.9	65.7
	在宅復帰率(%)	61.1	66.7	64.3	52.9	50.0	52.9	52.9	60.0	54.2	59.1	58.3	60.0	

## ■ あうん高知 業務実績

サービス種類：通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・介護予防通所	稼働率(%)	67.6	67.3	69.4	68.4	63.7	69.3	69.4	71.8	66.3	62.0	62.3	61.4	66.6
	延べ患者数(人)	422	420	433	427	413	416	433	448	414	357	359	398	412
	1日平均利用者件数(件)	16.2	16.2	16.7	16.4	15.3	16.6	16.7	17.2	15.9	14.9	15.0	14.7	16.0



## ■ 診療部

### 内科

#### □ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 森下美智子：「近況報告」、岡山大学医学部内科学第三講座・同門会 同門会誌2022年 p.99、2022年12月10日

#### □ 座 長

1. 中村寿宏：「教育講演1 どう伝える？ 糖尿病重症化予防のための療養支援」、高知記念病院 池田幸雄、第45回高知糖尿病チーム医療研修会、高知市、2022年11月27日

### 形成外科

#### □ 講演（講習会を含む）

1. 三好みちよ：「身近に感じてほしいサルコペニアと褥瘡 ～褥瘡チーム医療の経験から伝えたいこと～」、高知県食と栄養の会、高知市、2022年12月5日

## ■ 看護部

#### □ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 戸田早弥佳・宮地千絵・田淵綾美・大石陵子：「新型コロナウイルス感染症クラスターで得た知見とその後の取り組み」、四国老人福祉学会誌 論文集2022 P15-17、2023年3月

#### □ 学会・研究会

1. ○細川亜里沙、諏訪依美、桑名裕子、岡林綾子、森下美智子、品原正幸：「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者への看護～要介護者、認知症患者を中心に受け入れを行って～」、第18回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知県高知市、2022年10月23日
2. ○戸田早弥佳、宮地千絵、田淵綾美、大石陵子：「新型コロナウイルス感染症クラスターで得た知見とその後の取り組み」、四国老人福祉学会 第41回大会、高知県土佐市、2022年11月26日

## ■ 医療技術部

### リハビリテーション課

#### □ 講演（講習会を含む）

1. 田島一樹：「大型スーパーと共同した健康教室における糖尿病予防の啓蒙活動と継続」、南国市、2022年11月27日
2. ○田島一樹、高橋良昌：「体力測定」、マルナカ紡、高知市、2023年4月14日
3. 門脇貴代：「お金をかけずに健康増進！小さなことからコツコツと」、マルナカ紡、高知市、2023年4月25日
4. 武市貴美子：「中性脂肪をグン!! と下げる食事と運動」、マルナカ紡、高知市、2023年5月12日
5. 松坂篤：「明日からできる体幹トレーニング入門編」、マルナカ紡、高知市、2023年5月26日
6. 弘田美幸：「口内フローラってなに？お口から始める生活習慣病予防」、マルナカ紡、高知市、2023年6月9日
7. 山本潤：「バランスを鍛えて快適ライフ」、マルナカ紡、高知市、2023年6月23日
8. 森本愛：「骨盤のゆがみを整えよう」、マルナカ紡、高知市、2023年7月14日
9. 濱田くるみ：「転倒しない靴選び」、マルナカ紡、高知市、2023年7月28日
10. 西森深二：「自律神経を整えよう」、マルナカ紡、高知市、2023年8月10日
11. ○大原加有里・弘田美幸：「脳とカラダを同時に刺激!! デュアルタスク機能をアップしよう」、マルナカ紡、高知市、2023年8月25日
12. 貞光梨沙：「正しい手洗いと口腔ケアでとことんコロナ対策!!」、マルナカ紡、高知市、2023年9月8日
13. ○田島一樹、高橋良昌：「体力測定」、マルナカ紡、高知市、2023年9月22日
14. 田島一樹：「糖尿病をもっと知ろう！今からできる予防運動と知識」、マルナカ紡、高知市、2023年10月13日
15. 松坂篤：「明日からできる体幹トレーニング入門編②」、マルナカ紡、高知市、2023年10月27日
16. 山本潤：「今から予防！膝の変形と痛み」、マルナカ紡、高知市、2023年11月10日
17. 葛岡知佐子：「秋こそ代謝効率アップ 元気な身体づくり」、マルナカ紡、高知市、2023年11月24日

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

18. 谷口桃子：「のどトレと口腔ケアで誤嚥性肺炎予防」、マルナカ紡、高知市、2023年12月8日
19. 森本愛：「ストレッチで股関節を柔らかくしよう!」、マルナカ紡、高知市、2023年12月22日
20. 竹倉佐和子：「干支のうさぎを押絵で作ってみよう」、マルナカ紡、高知市、2023年1月12日
21. 濱田くるみ：「温活のススメ」、マルナカ紡、高知市、2023年1月26日
22. 田島一樹：「首・肩のストレッチで血行促進!」、マルナカ紡、高知市、2023年2月9日
23. 弘田美幸：「加齢でドライマウスになるって本当?～自宅のできるドライマウス対策～」、マルナカ紡、高知市、2023年2月24日
24. 門脇貴代：「指体操で脳を刺激!～指は第2の脳!～」、マルナカ紡、高知市、2023年3月9日
25. 大原加有里：「健康クイズ～頭と身体を整えよう～」、マルナカ紡、高知市、2023年3月23日

## ■ あうん高知

### □ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 小松雅理：「高知県介護老人保健施設協議会 令和4年度感染研修会 COVID-19陽性者対応を経験して」、高知県介護老人保健施設協議会、高知市（リモート）、2022年6月9日
2. 小松雅理：「令和4年度 介護労働講習 介護職員の自覚と健康管理」、(公財)介護労働安定センター高知県支部、高知市、2022年6月15日
3. 小松雅理：「看取りとは～逝く方から教えていただいた大切なこと～」、(公財)介護労働安定センター高知県支部（いの福祉会）、高知市（リモート）、2022年8月25日
4. 小松雅理：「令和4年度 高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修領域2 介護施設がクラスターとならないために」、高知県看護協会、高知市、2022年12月21日
5. 森中美緒：「令和4年度 高知県新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成研修領域2 実践演習」、高知県看護協会、高知市、2022年12月21日
6. 小松雅理：「令和4年度短期専門講習 看取りケアによる介護職員の心構えと不安の解消法」、(公財)介護労働安定センター高知県支部、高知市、2023年1月27日

依頼元名	延べ人数
<b>看護部 (愛2病棟)</b>	
高知開成専門学校看護学科 (1年生)	4
高知開成専門学校看護学科 (2年生)	4
合計	8
<b>医療技術部 (栄養管理室)</b>	
高知学園大学 健康科学部 管理栄養学科(3回生)	6
合計	6
<b>(リハビリテーション課)</b>	
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科	4
朝日医療大学校 言語聴覚学科	1
合計	5
<b>(地域医療連携室)</b>	
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	1
合計	1
<b>事務部 (医事課)</b>	
四国医療工学専門学校 医療情報学科	10
合計	10
<b>在宅部門 (高知市布師田・一宮地域包括支援センター)</b>	
高知県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	1
近森病院附属看護学校 (3年生)	2
龍馬看護ふくし専門学校 (3年生)	2
合計	5
<b>あうん高知 (通所リハビリテーション)</b>	
高知県立大学 社会福祉学部 (1回生)	3
合計	3
三愛病院総合計	38

細木病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

